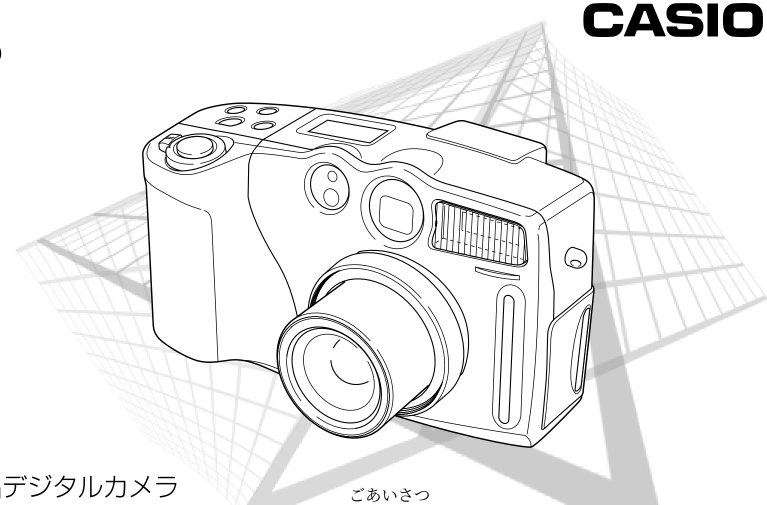
CASIO　Z

DPOF



液晶デジタルカメラ

QV-3500EX

取扱説明書（保証書付き）

ごあいさつ

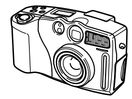
このたびはカシオ製品をお買上げ頂き、まことにありがとうございます。本機は、撮影した内容をその場で見ることができる液晶カラーモニターを備えた、コンパクトタイプの液晶デジタルカメラです。本機をご使用になる前に、必ず別紙の「安全上のご注意」をお読みになり、本書とともにお読みになった後も、大切に保管してください。

はじめに

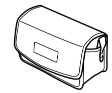
付属品の確認

箱を開けたら、まず下記の付属品が全部そろっているかどうかをご確認ください。もし、付属品が全部そろっていなかった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

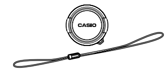
デジタルカメラ本体



ソフトケース

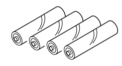


レンズキャップ／キャップホルダー

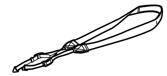


- レンズキャップは出荷時にデジタルカメラ本体に装着されています。

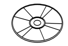
アルカリ電池（単3形×4）



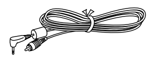
ネックストラップ



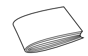
CD-ROM



専用ビデオコード



取扱説明書



取扱説明書
（保証書付き）



専用ソフト取扱説明書
（インストール編）

目次

はじめに　2

■付属品の確認 2
■目次 3
■早わかりガイド 8
準備をする 8
撮影する 9
再生する 10
画像を消す 11
■あらかじめご承知いただきたいこと 12
■本機の特徴 13
こんな特徴があります 13
こんな機能もあります 14
■使用上のご注意 16
データエラーのご注意 16
使用環境について 16
結露について 16
蛍光管について 16

準備　17

■各部の名称 17
前面部 17
背面部 18
側面部 19
底面部 19
■レンズについて 20
コンバージョンレンズ／クローズアップレンズの取り付け 20
フィルターの取り付け 22
レンズについてのご注意 22
■液晶モニター 23
液晶モニターの表示内容を切り替える 25
■コントロールパネル表示 26
■ランプについて 26
動作確認用ランプ 26
フラッシュランプ 27
セルフタイマー用ランプ 27
■付属品の使いかた 28
レンズキャップの取り付けかた 28
ネックストラップの取り付けかた 28
ネックストラップの長さ調節 29
ソフトケースの使いかた 29

■電源について 30
電池を使う 30
家庭用電源を使う 33
電源を入れる／切る 34
電池の消耗をおさえるための機能 35
■メモリーカードについて 36
メモリーカードを入れる 36
メモリーカードを取り出す 37
メモリーカードをフォーマットする 38
メモリーカードのご注意 38
■メニュー画面の操作 40
■日時の設定 41
日付と時刻を設定する 41
日付の表示方法を変える 42
タイムスタンプ 42

基本撮影　43

■基本的な撮影 43
撮影時の画面のご注意 44
オートフォーカスのご注意 45
撮影時のご注意 45
電池消耗時の画像記録について 45
■縦横認識機能 46
■最後に撮影した画像を確認する 47
最後に撮影した画像を消去する 47
■ファインダーを使用した撮影 47
■ズームについて 48
光学ズーム 48
デジタルズーム 49
■フラッシュについて 49
フラッシュの状態について 50
フラッシュの光量を変える 50
フラッシュ使用時のご注意 50
■ピント合わせの方法を変える 51
自動でピントを合わせる(オートフォーカス) 52
近くを撮影する(マクロ) 52
遠くを撮影する(無限遠) 53
手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス) 53
フォーカスロック 54
フォーカスエリアを指定する 55
■画像のサイズと画質を変える 56
■セルフタイマーを使う 57
■露出を補正する 58

応用撮影 59

■連続して撮る(連続撮影モード) 59
■ポートレートを撮る(ポートレートモード) 60
■風景を撮る(風景モード) 60
■夜景を撮る(夜景モード) 61
■さまざまなシーンを選んで撮る
(ベストショットモード) 62
ベストショットモードの画像選択方法を設定する 63
撮影したいシーンを登録する(カスタム登録) 63
撮影したいシーンをCD-ROMから取り込む
(ベストショットライブラリ) 64
■動画を撮る(ムービーモード) 65
通常モードで撮影する 66
過去撮りモードで撮影する 66
■パノラマ画像を撮る(パノラマモード) 67
■露出の方法を変える 68
プログラムAE 68
絞り優先AE 68
シャッター速度優先AE 69
マニュアル露出 71
簡単に露出モードを変える 72
■測光方式を変える 72
簡単に測光方式を変える 73
■感度を変える 73
■色を変える(フィルター) 74
■ホワイトバランスを変える 74
マニュアルホワイトバランスの設定 75
簡単にホワイトバランスを変える 75
■色を強調する 76
■グリッドを表示する 76
■シャープネスを変える 77
■彩度を変える 77
■コントラストを変える 77
■撮影した画像を圧縮しないで保存する(TIFFモード) 78
■各種設定を記憶させる(モードメモリ) 79
各種設定のリセット 79
■ショートカット機能 80
簡単に露出モード/測光方式/ホワイトバランスを変える 80
よく設定を変える項目を登録する(キーカスタマイズ) 80
簡単に設定内容を変える 82

再生する 83

■基本的な再生のしかた 83
■動画を再生する 83
■パノラマ画像を再生する 84
■画像を拡大して表示する 84
■1つの画面に9つの画像を表示する 85
目当ての画像を素早く表示する 86
■ヒストグラムを表示する 86
■画像を自動的にページめくりさせる
(スライドショー) 87
■画像サイズを変える(リサイズ) 88
■画像の一部を切り抜く(トリミング) 89

消去する 90

■表示されている画像を消去する 90
■1画像単位で消去する 91
■フォルダ単位で画像を消去する 92
■全画像を消去する 92

画像の管理について 93

■フォルダの分類について 93
メモリーカード内のフォルダについて 93
再生したいフォルダを選択する 94
■撮影した画像の消去防止をする
(メモリープロテクト) 94
1画像単位で消去防止する 94
フォルダ単位で消去防止する 95
全画像を消去防止する 95
■DPOF機能について 96
1画像単位で印刷の設定をする 96
フォルダ単位で印刷の設定をする 97
全画像に印刷の設定をする 97

その他の設定について 98

■表示言語を切り替える 98
■操作音のオンオフ 98

他の機器との接続 99

■テレビに画像を映し出す 100
ビデオ出力の方式を変更する場合 100
■デジタルフォトプリンターでプリントする 101
■リモコンを接続する 101
■パソコンで画像を活用する 102
USB端子での接続(Windows/Macintosh) 102
その他の端子での接続 103
■パソコンでメモリーカードを活用する 105
メモリーカード内のデータについて 106
DCF規格について 106
メモリーカード内のディレクトリ構造 107
このデジタルカメラで扱える画像ファイル 109
パソコン上でメモリーカードを扱うときの注意点 109
■カードブラウザ(HTMLファイル)機能 110
カードブラウザの種類を選ぶ 110
カードブラウザファイルを見るには 112
カードブラウザを保存するには 114
■携帯電話に画像を送る 114
使用できる携帯電話 114

付録 115

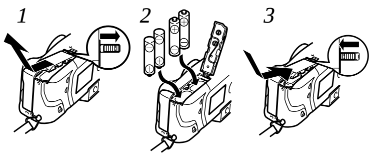
■メニュー一覧表 115
RECモード 115
PLAYモード 116
■各モードの設定内容 117
各撮影モードで設定可能な機能 117
撮影モードと露出モードの併用 117
■故障とお思いになる前に 118
現象と対処方法 118
画面に表示されるメッセージ 121
■主な仕様/別売品 123
主な仕様 123
別売品 125
■サービスステーション/相談窓口 126
カシオテクノ・サービスステーション 126
カシオお客様ご相談窓口 126
■保証規定 127
■保証・アフターサービスについて 128
■索引 129

早わかりガイド

準備をする

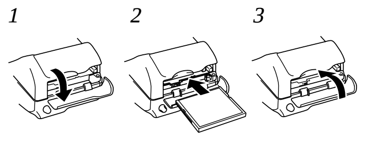
1

電池を入れます。(30ページ)



2

メモリーカードを入れます。(36ページ)



3

日時設定をします。(41ページ)

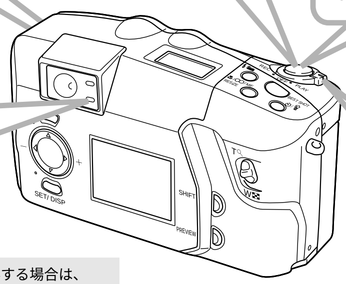
撮影する（詳細は43ページ参照）

1
【レンズキャップ】をはずします。

5
【シャッター】を全押しします。

3
【レンズ】を被写体に向け、【液晶モニター】で確認しながら【シャッター】を半押ししてピントを合わせます。

4
【動作確認用ランプ】が緑色に点灯していることを確認します。



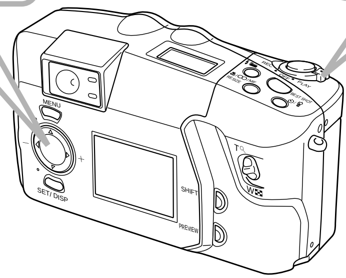
2
【電源／ファンクションスイッチ】を“REC”に合わせます。

ファインダーを使用して撮影する場合は、視度調整を行ってください（48ページ）。

再生する（詳細は83ページ参照）

2
【▶】または【◀】を押すと、記録した画像の送り／戻しができます。

1
【電源／ファンクションスイッチ】を“PLAY”に合わせます。



画像を消す（詳細は90ページ参照）

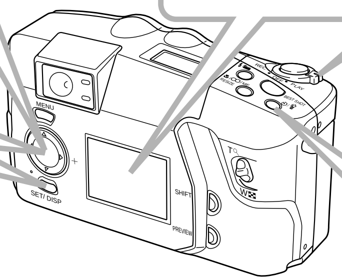
2
【▶】または【◀】で消去する画像を選びます。

4
現在表示されている画面が間違いなく消したい画像であることを確認してください。

- 消去を中止したい場合は【MENU】を押してください。

1
【電源／ファンクションスイッチ】を“PLAY”に合わせます。

5
【▼】で“はい”を選び、【SET/DISP】を押します。
（消去完了）



3
【 】を押します。

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部又は全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- デジタルカメラを使って撮影したものは、個人として使用するほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

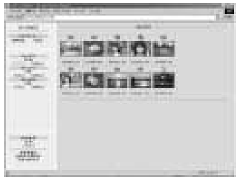
本文中の以下の用語は、それぞれ各社の商標です：

- Windows、およびInternet Explorerは米国マイクロソフト社の商標です。
- Macintoshは米国アップルコンピューター社の商標です。
- CompactFlash、コンパクトフラッシュ、 ロゴは米国SanDisk社の商標です。
- IBMは米国IBM社の商標です。
- USBドライバはPhoenix Technologies社のソフトウェアを使用しています。
  Compatibility Software Copyright © 1997
  Phoenix Technologies Ltd., All Rights Reserved.
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

本機の特徴

こんな特徴があります

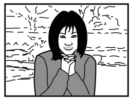
- 高画質334万画素CCD搭載
- 液晶モニターに1.8型TFT型低反射カラー液晶（HAST）搭載
- 12倍ズーム搭載:光学ズーム3倍／デジタルズーム4倍
- メモリーカードとしてコンパクトフラッシュカード（CF TYPE I / II）とマイクロドライブに対応
- DPOF（Digital Print Order Format）対応
  カメラでプリントしたい画像を指定。DPOF対応のプリンターで簡単にプリントアウトができます。また、DPOF対応のサービスラボでもプリントの注文ができます。
- DCF（Design rule for Camera File system）対応
  DCF規格対応の他社のデジタルカメラやプリンターなどと画像の互換性があります。
- ビデオ出力端子搭載
  撮影した画像を簡単にご家庭のテレビでご覧いただけます。
- USB接続対応
  パソコンに簡単にデータを取り込むことができます。
- カードブラウザ（HTMLファイル）機能搭載
  撮影画像をパソコンで一覧表示できます。



- 撮影した画像をパソコンで管理、活用できるソフトが付属
  パソコンリンクソフトPhoto Loader、パノラマ画像編集ソフトPanorama Editor, ブラウザソフトInternet Explorer、電子メールソフトOutlook Express、動画再生ソフトQuickTime、PDFファイル閲覧ソフトAcrobat Readerが付属のCD-ROMに収録されています。

こんな機能もあります

◆人物を浮き立たせて撮影（ポートレートモード）



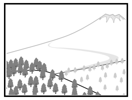
（60ページ）

◆被写体や撮影意図に合った設定を簡単設定（ベストショットモード）



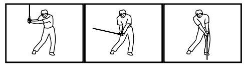
（62ページ）

◆風景をクッキリと撮影（風景モード）



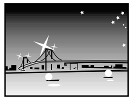
（60ページ）

◆動画を撮影（ムービーモード）



（65ページ）

◆夜景を鮮やかに撮影（夜景モード）



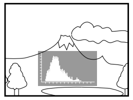
（61ページ）

◆10枚の画像を合成してパノラマ撮影（パノラマモード）



（67ページ）

◆露出チェックができるヒストグラム表示



（86ページ）

◆各種露出モードの選択が可能（4通り）

プログラムAE、絞り優先AE、シャッター速度優先AE、マニュアル露出 （68〜72ページ）

◆各種測光方式の選択が可能（3通り）

マルチパターン測光、中央重点測光、スポット測光 （72〜73ページ）

◆各種フォーカスモードの選択が可能（4通り）

オートフォーカス、マクロ、無限遠、マニュアル （51〜54ページ）

使用上のご注意

データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。

ー 記録､通信中に電池をはずしたり､ACアダプターをはずした
ー 撮影中などにメモリーカードを抜いた
ー 電源をOFFにしたときに【動作確認用ランプ】が点灯している状態で電池やACアダプターを抜いた、【メモリーカードカバー】を開けた、メモリーカードを抜いた
ー 通信中のケーブルはずれ
ー 消耗した電池を使用し続けた
ー その他の異常操作

このような場合、次の表示が出ましたら、画面に対応したご処置をお願いいたします。

- メモリーカードが異常です
- フォーマットされていません

→ 画面に表示されるメッセージとその対処方法。（118ページ）

使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃〜40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。
  ー 直射日光のあたる場所、湿気やホコリの多い場所
  ー 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  ー 日中の車内、振動の多い場所

結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く（結露）ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、電池ブタを開けたまま数時間放置してください。

蛍光管について

- 液晶画面のバックライトに使用されている蛍光管には寿命があります。液晶画面が暗くなったり、チラつく場合は、最寄りのカシオテクノ・サービスステーション（126ページ）までご連絡ください。有償にてお取り替え致します。蛍光管の寿命は、一日2時間のご使用で約6年間です。
- 低温でご使用の場合は、バックライトが点灯するまでに時間がかかったり、赤味を帯びることがありますが、故障ではありません。しばらくすると正常に戻ります。

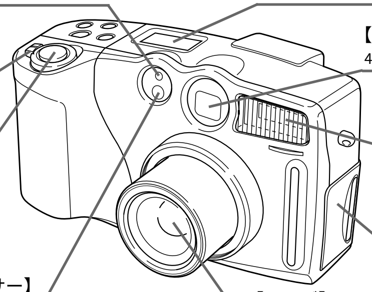
準備

初めてご使用になるかたはここからお読みになり、撮影前の準備を行ってください。

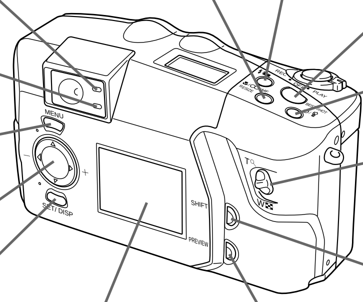
各部の名称

この取扱説明書では、本機の各部の名称を次のように【　】を使って表記します。スイッチやボタンなどの場所がわからなくなった場合は、こちらをご参照ください。

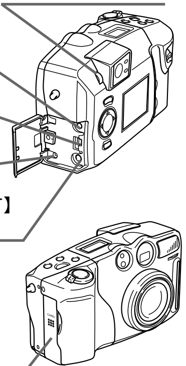
前面部



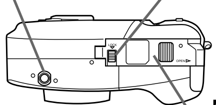
背面部



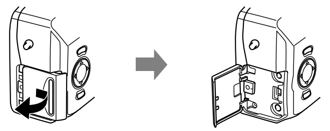
側面部



底面部



端子カバーの開きかた



レンズについて

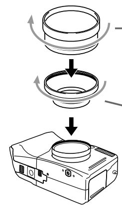
本機の【レンズ】にはネジきりがあり、別売のコンバージョンレンズアダプター（LU-35A）を利用することで、推奨のコンバージョンレンズ／クローズアップレンズや市販のフィルターを取り付けることができます。

コンバージョンレンズ／クローズアップレンズの取り付け

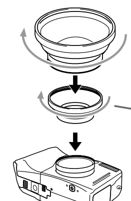
コンバージョンレンズを取り付けることにより、さらなる望遠撮影や広角撮影ができます。また、クローズアップレンズを取り付けることにより、より近接のマクロ撮影ができます。

重要! • 推奨のコンバージョンレンズ／クローズアップレンズは、次のキャノン（株）製の製品のみとなります。

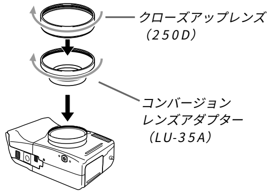
●望遠撮影用
キャノン（株）製テレコンバーター TC-DC58
焦点距離：デジタルカメラ本体の焦点距離の1.5倍



●広角撮影用
キャノン（株）製ワイドコンバーター　WC-DC58
焦点距離：デジタルカメラ本体の焦点距離の0.8倍



●マクロ撮影用
キャノン（株）製クローズアップレンズ　250D（58mm）
撮影可能距離：マクロモードにて、クローズアップレンズ前面から被写体までの距離が5cm〜14cmの撮影が可能（ズームをワイド端にして使用した場合）。それ以外では7cm〜14cm。



重要!
- コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを使用するときは必ず指定のコンバージョンレンズアダプター（LU-35A）を使用してください。コンバージョンレンズアダプターを使わないと、せり出したレンズがコンバージョンレンズ／クローズアップレンズに当たり故障の原因となります。
- コンバージョンレンズ／クローズアップレンズを取り付けてもファインダー内の画角は変わりませんので、撮影するときは【液晶モニター】をお使いください。また、【ファインダー】を使うとファインダー内の一部にケラレ（光線がさえぎられることによる黒い影）が生じます。
- コンバージョンレンズ／クローズアップレンズ使用時はフラッシュ撮影ができません。
- テレコンバーターはズームを広角側にして使用するとケラレ（光線がさえぎられることによる黒い影）が生じますので、望遠側でご使用ください。
- テレコンバーター使用時は手ぶれが発生しやすいので、必ず市販の三脚をご使用ください。
- ワイドコンバーターは性質上、画像に歪みを生じることがあります。ご注意ください。また、ワイドコンバーターはズームをワイド端にしてお使いください。
- クローズアップレンズ使用時は、必ずフォーカスモードを（マクロモード）に切り替えてください（51ページ）。他のフォーカスモードではピントが合いません。

フィルターの取り付け

市販の口径φ58mmのフィルターを取り付けて撮影することができます。

重要!
- フィルターを使用するときは必ず指定のコンバージョンレンズアダプター（LU-35A）を使用してください。コンバージョンレンズアダプターを使わないと、せり出したレンズがフィルターに当たり故障の原因となります。
- フィルターによっては次のようなことがあります。ご確認のうえご購入ください。
  - ※ 画面の周辺にケラレ（光線がさえぎられることによりできる黒い影）が生じる。
  - ※ オートフォーカス、およびフラッシュの性能が十分に発揮できない。
  - ※ 銀塩カメラと同様の効果が得られない。
- フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。
- 市販のレンズフードを使用するとフラッシュが正常に発光しません。

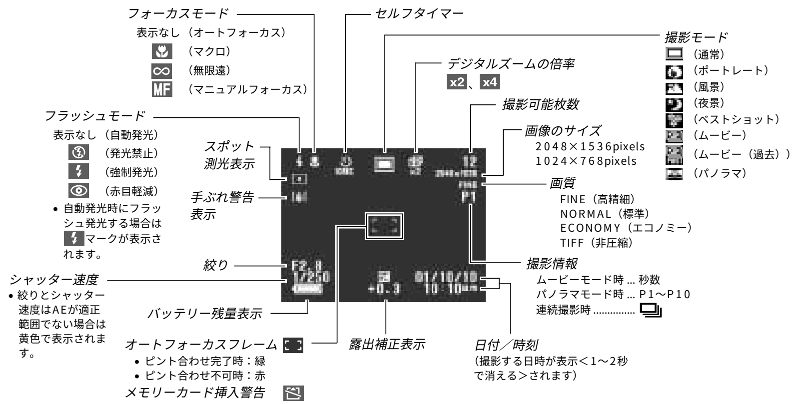
レンズについてのご注意

- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮されませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機では、沈胴式レンズを採用しています。電源の入／切やズーム操作などにより、レンズが移動しますので、無理な力を加えたり、レンズを下向きに伏せて机などの上に置かないでください。また、撮影をするときはレンズキャップをはずしてから電源を入れてください。レンズキャップを取り付けたまま【電源／ファンクションスイッチ】を“REC”にすると【液晶モニター】に“LENS CAP!”と表示されたあと自動的に電源が切れます。レンズキャップをはずしてから再度“REC”にし直してください。
- 本機では、レンズが飛び出している状態で電池やACアダプターを抜かないでください。レンズが収納されず、故障の原因となります。

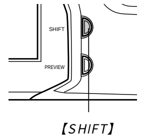
液晶モニター

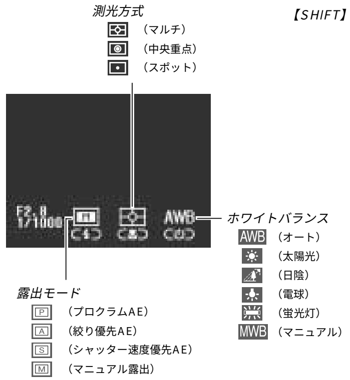
【液晶モニター】にさまざまな情報が表示されます。

● RECモード時

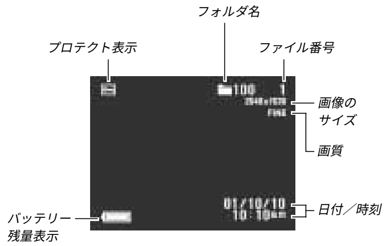


■【SHIFT】を押し続けたとき

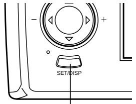


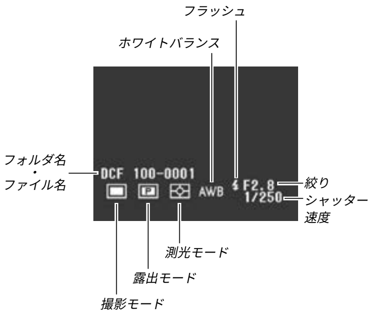


● PLAYモード時



■【SET/DISP】を押したとき





重要! • 本機以外で撮影された画像に対しては正常に表示されない場合があります。

液晶モニターの表示内容を切り替える

【SET/DISP】を押すことにより、【液晶モニター】に表示される内容を切り替えることができます。

■ RECモード時

【SET/DISP】
撮影情報表示オン（23ページ）
↓【SET/DISP】
撮影情報表示オフ
↓【SET/DISP】
液晶モニターオフ

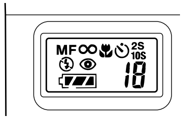
■ PLAYモード時

【SET/DISP】
再生情報表示オン（24ページ）
↓【SET/DISP】
再生情報（詳細）表示オン（25ページ）
↓【SET/DISP】
ヒストグラム表示オン（86ページ）
↓【SET/DISP】
再生情報表示オフ

重要! • ムービー撮影された画像では、PLAYモード時に【SET/DISP】を押しても、再生情報（詳細）は表示されません。
• 動画（83ページ）再生時には、ヒストグラムは表示されません。

コントロールパネル表示

撮影時に以下の状態であることを表示します。【液晶モニター】を消しているとき、撮影状態の確認用に使用します。
本書の説明では、【液晶モニター】に表示される画面情報表示を使用します

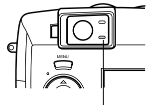


MF	マニュアルフォーカス表示		バッテリー残量表示
∞	無限遠表示		マクロ表示
	フラッシュ発光禁止表示	2S 10S	セルフタイマー設定時間
	フラッシュ強制発光表示	数字	撮影可能枚数／画像ページ番号
	フラッシュ赤目軽減表示		

ランプについて

動作確認用ランプ

操作によって、点灯したり、点滅したりします。点灯／点滅によって、次の内容を表しています。



■撮影時

発光色	点　滅
緑色	起動中／記録中（連続撮影）／ムービー撮影（過去撮り）スタンバイ

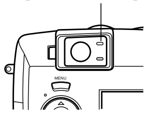
• 消灯は撮影可能を意味します。

■シャッター半押し時

発光色	点　灯	点　滅
緑色	ピント合わせ完了	ピント合わせ不可

フラッシュランプ

操作によって、点灯したり、点滅したりします。点灯／点滅によって、次の内容を表しています。



■撮影時

発光色	点　滅
オレンジ色	フラッシュ充電中

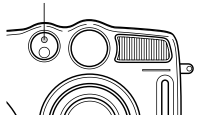
■シャッター半押し時

発光色	点　灯
オレンジ色	発光予告

※【動作確認用ランプ】と【フラッシュランプ】が両方とも点滅したときは、液晶モニターのON／OFFに関係なく、液晶モニターがONになり、エラーメッセージが表示されます。

セルフタイマー用ランプ

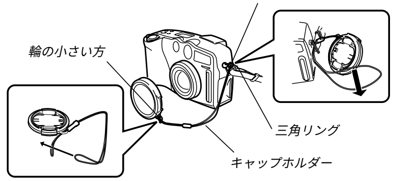
セルフタイマー撮影を行うときにランプが点滅します。



付属品の使いかた

レンズキャップの取り付けかた

本機をご使用にならないときは、必ずレンズキャップを取り付けてください。本機の電源を切り、レンズが本体に引き込まれた状態でレンズキャップを取り付けてください。

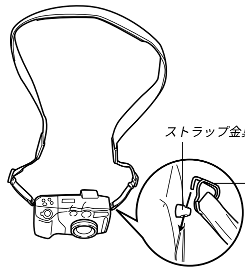


• レンズキャップをキャップホルダーで吊り金具につなぎ止めることで紛失防止ができます。

重要! • レンズキャップをレンズに取り付けたままで電源を入れないでください。

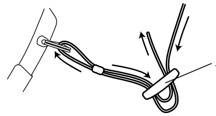
ネックストラップの取り付けかた

ネックストラップは、図のように三角リングをストラップ金具に取り付けます。



ネックストラップの長さ調節

ネックストラップの長さは、ネックストラップのバックル部分で調節してください。

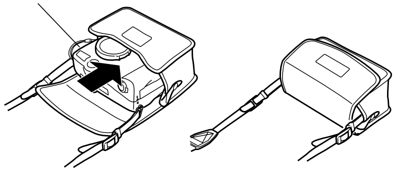


重要!
- カメラ操作時は、落下を防止するため、必ずネックストラップを首から下げた状態で使用してください。
- 付属のネックストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ネックストラップを持って本機を振り回さないでください。
- ネックストラップを首にかけたまま本機を固定しないで持ち運ぶと、本体に衝撃を与えたり、ドアに挟まったりして、故障やケガの原因となりますのでご注意ください。
- 本機は、幼児の手の届かないところへ保管してください。誤ってストラップが首に巻きつくなど、事故発生の恐れがあります。

ソフトケースの使いかた

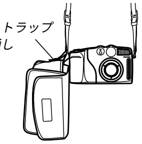
ご使用にならないときは、本機を付属のソフトケースに入れて保管してください。

液晶モニターを下にする。



参考
- デジタルカメラ使用時はソフトケースのストラップ通しを利用してストラップにソフトケースを釣り下げることができます。

重要!
- ソフトケースには本機以外は入れないでください。



電源について

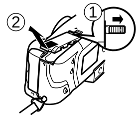
本機は下記のいずれかの電源が利用できます。

- 電池
  単3形アルカリ電池LR6：4本
  単3形リチウム電池FR6：4本
  リチウム電池パックCR-V3P：2個
  単3形ニッケル水素蓄電池NP-H3：4本
- 家庭用電源
  ACアダプター：AD-C620J
  ACアダプターチャージャー：BC-3HA

電池を使う

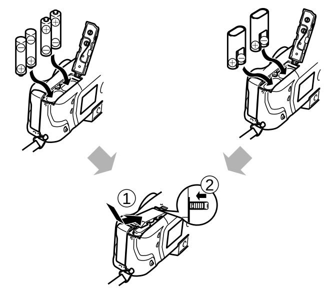
電池交換の際は、電源を切った状態で行ってください。

1. **本体底面の【ロックツマミ】を①の矢印の方向にスライドさせ、次に【電池ブタ】を②の矢印の方向にスライドさせて開きます。**



2. **電池を図のようにセットした後、【電池ブタ】を①の矢印の方向へ押しつけながらスライドして閉め、次に【ロックツマミ】を②の矢印方向にスライドさせます。**

- 単3形電池の場合
- リチウム電池パックの場合



重要!
- マンガン電池は使用できません。必ず単3形の指定電池、または指定のリチウム電池パックをご使用ください。
- リチウム電池パックの装填は正しく行ってください。間違った向きには入らないように設計されていますが、無理に入れようとすると故障の原因となります。

■電池寿命の目安

下記の電池寿命は、標準温度（25℃）で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

使用電池	連続再生時間	連続撮影時間（撮影枚数）
単3形アルカリ電池LR6	約170分	約70分（約420枚）
単3形リチウム電池FR6	約270分	約150分（約900枚）
リチウム電池パックCR-V3P	約350分	約225分（約1350枚）
単3形ニッケル水素蓄電池NP-H3	約170分	約110分（約660枚）

- 測定条件
  標準温度（25℃）／連続撮影／フラッシュ非点灯／
  1枚撮影毎に光学ズームをテレ端〜ワイド端に１回動作させる
- 使用電池
  単3形アルカリ電池LR6　　：松下電池工業（株）製
  単3形リチウム電池FR6　　：富士写真フイルム（株）製
  リチウム電池パックCR-V3P：松下電池工業（株）製
  ※ 電池寿命は電池メーカーによって異なります。

- 仮に上記条件で1分毎に1枚ずつ撮影した場合、上記数値の約1/6になります。
- フラッシュやズームなどの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。
- 各電池の特性の違いからバッテリー残量表示の変化のスピードも各々で異なります。

■電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しないで撮影するときは、【⚡ ▬】を押して🚫（発光禁止）に設定してご使用いただくと電池寿命が長くなります。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能（35ページ）を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな電力消費をおさえることができます。

■電池特性による注意事項（アルカリ電池について）

アルカリ電池の寿命は、メーカーや保存期間、使用温度、撮影条件により大きく異なります。通常ご使用になる場合、アルカリ電池よりも寿命の長いニッケル水素蓄電池やリチウム電池のご使用をおすすめいたします。

例1： 断続的に使用した場合は、電池寿命は短くなります。

- 条件 ： 常温（25 ℃）
  1分毎にズームを1.5往復、フラッシュを発光し1枚ずつ、10分間撮影 → 1分間再生 → 9分間電源を切る。この操作を繰り返す。
- 撮影時間約35分／撮影枚数約32枚

例2： 低温下で使用した場合、電池寿命は短くなります。

- 条件 ： 低温（0 ℃）
  1分毎にズームを1.5往復、フラッシュを発光し1枚ずつ、10分間撮影 → 1分間再生 → 9分間電源を切る。この操作を繰り返す。
- 撮影時間約8分／撮影枚数約8枚

■リチウム電池パック（CR-V3P）のご利用について

この電池は、デジタルカメラなどの大容量の電流を必要とする機器向けに新たに開発されたものです。ご使用にあたっては、以下の説明をよくお読みください。なお、この電池に関する詳細仕様、販売店等に関しては以下へお問い合わせください。

松下電器産業株式会社　お客様ご相談センター
フリーダイヤル 0120-878-365（**受付時間** 9:00〜20:00）

- 従来のアルカリ電池やリチウム電池に比べて容量が非常に大きいため、長時間の連続使用が可能です。
- 温度特性に優れており、低温時にも安定した電力を供給できます。
- 保存特性に優れており、長時間放置しておいても自己劣化が非常に少なく安定しています。

重要!
- ご使用になる前に、電池本体や包装に記載されている注意事項をよくお読みください。
- 電池には安全装置が設けられていますが、容量が大きいため、金属によるショート等には充分注意してください。
- 放電特性の違いから、カメラでのバッテリー残量表示の減りかたが他の電池の場合と異なることがあります。

■充電式電池のご利用について

充電式電池は、別売のニッケル水素蓄電池（NP-H3）をお使いください。他の充電式電池については動作保証いたしかねます。

ACアダプターチャージャー　　　　　：BC-3HA
ニッケル水素蓄電池／急速充電器セット：BC-1HB4
ニッケル水素蓄電池（4本セット）　　：NP-H3P4

重要!
- 電池は、必ず同じ製品を4本セットでご使用ください。違う種類の電池や、充電状態の異なる電池を組み合わせてご使用になると、電池寿命を短くしたり、カメラの故障の原因となります。
- 本機では充電できません。

■電池使用時の注意事項

●電池は使いかたを誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災、けがの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。
- 極性(⊕と⊖の向き)に注意して正しく入れてください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 本機で指定されている電池以外は使用しないでください。

●電池は、充電や分解、ショートする恐れのあることはしないでください。また、加熱したり火の中へ投入したりしないでください。

●使えなくなった電池は漏液して故障の原因となりますので、すぐに取り出してください。

- 2週間以上使用しないときは、取り出しておいてください。
- 電池が消耗してくると熱を持ちますが故障ではありません。

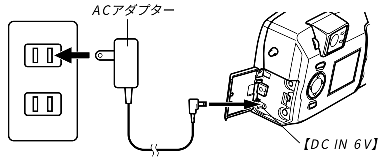
■バッテリー残量表示

電池が消耗すると【液晶モニター】や【コントロールパネル】に表示されているバッテリー残量表示が下記表のように変化します。、 や 、 の状態で使用し続けると、自動的に電源が切れます。速やかにすべて新しい電池と交換してください。本書の説明では【液晶モニター】の表示を使用します。

電池残量	多 ←――――――――→ 少
液晶モニター表示	→ → →
コントロールパネル表示	→ → →

家庭用電源を使う

家庭用電源から電源を取るには次のアダプターをご使用ください。



- ACアダプター：AD-C620J（別売）

※ ACアダプターは米国などAC100〜120Vの電源地域への旅行の際は、そのままご使用になれます。

- ACアダプターチャージャー：BC-3HA（別売）

※ ACアダプターチャージャーはACアダプターの機能と、単3形ニッケル水素蓄電池の充電機能を備えています。また、単3形ニッケル水素蓄電池が4本同梱されています。

※ ACアダプターチャージャーはAC100〜240Vの電源に対応しており、海外への旅行の際もご利用になれます。海外でのご使用では、各地域に合った市販の電源コードをお買い求めください。

■ACアダプター使用時の注意

●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります（ACアダプターは別売本機専用をご使用ください）。

●ACアダプターの電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。

●ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。

●濡れた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

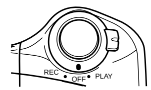
●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。

●万一、ACアダプターの電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

- ACアダプターを抜き差しする際は、必ず本機の電源を切った状態で行ってください。
- 本機に電池をセットした状態でACアダプターを使う場合でも、電源を入れたままACアダプターの抜き差しをするのはおやめください。電源を入れたままACアダプターの抜き差しを行うと製品保護のために本機の電源は一度切れますが、保護しきれずに故障の原因となります。
- ACアダプターは、長時間ご使用になりますと若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、ACアダプターをコンセントから必ずはずしてください。
- ACアダプターのプラグを差し込むと、電池よりもACアダプターが優先されます。
- パソコンと接続する際は、ACアダプターをお使いください。

電源を入れる／切る

本機は【電源／ファンクションスイッチ】を使用して電源を入れたり切ったりします。



"REC"　：電源が入り、撮影できる状態になります。
"PLAY"：電源が入り、再生できる状態になります。
"OFF"　：電源が切れます。

重要!
- レンズキャップをレンズに取り付けたままで電源を入れないでください。
- レンズを下に向けて置いた状態で電源を入れないでください。
- オートパワーオフ機能で電源が切れた場合は、一度"OFF"に合わせてから、再度電源を入れてください。

電池の消耗をおさえるための機能

電池の消耗をおさえるために、以下の2通りの設定ができます。

オートパワーオフ：一定時間操作しないと電源が切れます。

スリープ：RECモード時に一定時間操作をしないと、【液晶モニター】のみ消灯します。ボタン操作をすると【液晶モニター】が再度点灯します。

1. **【電源／ファンクションスイッチ】を"REC"に合わせます。**

2. **【MENU】を押し、設定したい項目を選び【SET/DISP】を押します。**

メニューのたどりかた(40ページ)：
オートパワーオフの設定："機能"→"オートパワーオフ"
スリープの設定："機能"→"スリープ"

3. **【▲】または【▼】で設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

オートパワーオフの設定内容："2分""5分"
スリープの設定内容："切""30秒""1分""2分"

- PLAYモードではオートパワーオフの設定時間は5分に固定されます。
- PLAYモードではスリープは働きません。
- スリープ中にいずれかのボタンを押すと、スリープを解除してすぐに撮影できる状態になります。
- スリープとオートパワーオフの設定が共に2分の場合はオートパワーオフの方を優先します。すなわち、2分間操作をしないと電源が切れます。
- 以下の状態では、オートパワーオフは働きません。

－スライドショー中
－本機のデジタル端子やUSB接続端子を通じて本機を外部のパソコンやプリンターなどと接続しており、外部機器で本機を操作しているとき
－ACアダプターを接続しているとき

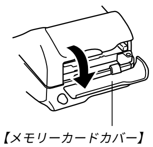
メモリーカードについて

本機は、撮影画像の記録用としてメモリーカード（コンパクトフラッシュカード<CF TYPE Ⅰ/Ⅱ>、またはマイクロドライブ）を使用します。

重要!
- メモリーカードの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- カードには、表裏、前後の方向があります。無理に入れようとすると破損の恐れがあります。

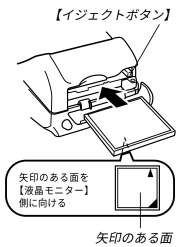
メモリーカードを入れる

1. **【メモリーカードカバー】を開きます。**

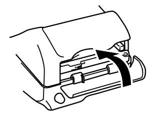


2. **メモリーカードの矢印のある面を【液晶モニター】側に向け、しっかり押し込みます。**

- 【イジェクトボタン】が出ているときは【イジェクトボタン】を押し込んでからメモリーカードを入れてください。

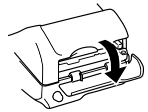


3. **【メモリーカードカバー】を閉めます。**



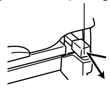
メモリーカードを取り出す

1.【メモリーカードカバー】を開きます。

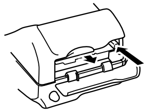


2.【イジェクトボタン】を押します。

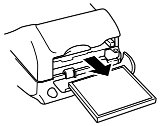
- 1回押すと、【イジェクトボタン】が飛び出します。



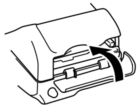
3.【イジェクトボタン】を深く押し込みます。



4. メモリーカードを取り出します。



5.【メモリーカードカバー】を閉めます。



重要!
- 故障の原因となりますので、メモリーカード挿入部にはメモリーカード以外のものを入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池・ACアダプターを抜いて、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。
- メモリーカードの挿入部を下にしたまま、カードを取り出さないでください。メモリーカードが落下して、故障やデータが破壊する場合があります。
- 【動作確認用ランプ】が点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像がメモリーカードに記録されなかったり、メモリーカードを破壊する場合があります。

メモリーカードをフォーマットする

メモリーカードをフォーマットすると、メモリーカードの内容がすべて消去されます。

重要!
- 画像データにメモリープロテクト（94ページ）をかけていても、メモリーカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。
- メモリーカードをフォーマットすると、ベストショットモードのシーンのサンプル画像は消えてしまいますので、その場合は必要に応じて再度サンプル画像を取り込んでください（64ページ）。
- 一度メモリーカードをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマットしてもよいかをよく確かめてから行ってください。

1.【電源／ファンクションスイッチ】を"REC"または"PLAY"に合わせます。

2.【MENU】を押し"フォーマット"を選び【SET/DISP】を押します。

メニューのたどりかた（40ページ）：

RECモード時　："機能"→"設定"→"フォーマット"

PLAYモード時："設定"→"フォーマット"

3.【▲】または【▼】で"はい"を選び【SET/DISP】を押します。

はい：フォーマットを実行します。

いいえ：フォーマットを実行しません。

メモリーカードのご注意

■メモリーカードについて

- 本機はメモリーカードが装着されていないと画像が記録できません。必ずメモリーカードを装着してください。
- メモリーカードは必ずカシオ製コンパクトフラッシュカードを使用してください。他社のメモリーカードをお使いの場合は動作保障できません。
- 静電気、電気的ノイズ等により記録したデータが消滅または破壊する事がありますので、大切なデータは別のメディア（MOディスク、フロッピーディスク、ハードディスクなど）にバックアップして控をとることをおすすめします。
- 万が一メモリーカードの異常が発生した場合は、メモリーカードのフォーマットの操作で復帰できますが、外出先などでこの操作を行えない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちすることをおすすめします。
- 異常と思われる画像を撮影したり、新たに別売のメモリーカードをご購入された場合は、一度フォーマット（初期化）してお使いいただくことをおすすめいたします。
- フォーマットの操作を行うときは、ACアダプターを使用するか、新品のアルカリ電池またはリチウム電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると正しくフォーマットが行われず、メモリーカードが正常に使用できない場合があります。

■IBM社製マイクロドライブのご注意

本機でのIBM社製マイクロドライブの動作は確認されていますが、ご使用にあたっては以下の注意事項をお読みになり、取り扱いには十分注意してください。

- ご使用の前に必ずマイクロドライブに付属の取扱説明書をよくお読みください。
- ご使用の際、マイクロドライブ自体が熱を持つことがあります。カメラから取り出すときは十分ご注意ください。
- マイクロドライブの抜き差しの際は、ラベル面を強く押さないようにしてください。内部が圧迫され、故障の原因となることがあります。
- 【動作確認用ランプ】が点滅中は、電源を切ったり、衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- マイクロドライブの内部は非常に精密です。装着したカメラが落下した場合、カメラは故障しなくてもマイクロドライブは故障する場合があります。カメラに付けた状態でも、取り扱いには十分注意してください。
- マイクロドライブは容量が非常に大きいため、ご使用の状況によっては処理に時間がかかる場合があります。
- マイクロドライブは、その特性上、気圧の低いところでは正常に動作しない場合があります。標高の高い場所でのご使用は避けてください。
- マイクロドライブはコンパクトフラッシュカードに比べて大きな電力を必要とします。使いかたによって、電池寿命が極端に短くなる場合があります。また、アルカリ電池では使用環境、電池メーカーの違いなどによって、ほとんど動作しない場合があります。マイクロドライブを使用される場合、ニッケル水素蓄電池、またはリチウム電池のご使用をおすすめいたします。
- 電池残量が充分でないときは、マイクロドライブの保護のため撮影間隔が長くなるときがあります。
- 本機は、コンパクトフラッシュカードとマイクロドライブの両方が使用できるよう設計していますが、マイクロドライブはコンパクトフラッシュカードにくらべ、若干取り出しにくいことがあります。

■マイクロドライブの故障について

万一故障した場合は、マイクロドライブの販売元、あるいは指定の連絡先にお問い合わせください。当社ではマイクロドライブの故障に関してのサポートはしておりません。また、その際のデータの消失に対しても責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

メニュー画面の操作

本機ではメニュー画面を使用して様々な操作を行います。この操作をまず覚えてください。【MENU】を押すと、メニュー画面が表示されます。メニューの内容はREC（撮影）モードとPLAY（再生）モードでは異なります。ここでは例としてRECモードでの操作を説明します。

1.【電源／ファンクションスイッチ】を"REC"に合わせます。

- PLAYモードの機能を設定する場合は"PLAY"に合わせます。

2.【MENU】を押します。

3.【▲】【▼】【◀】【▶】で設定したい項目を選び【SET/DISP】を押します。

- 各項目の設定は操作ガイドにしたがって操作してください。

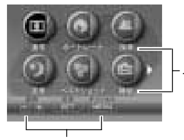
【▲】【▼】【◀】【▶】：項目を選択したり、次のページへ移動します。

【SET/DISP】：　選択した項目に決定します。

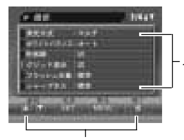
【MENU】：　前の画面に戻ります。

●表示例

RECモード1ページ目



RECモードの機能メニュー2ページ目



- 一部の項目では【⏻ 🏠】を押して操作を終了する項目があります。
- メニューの内容については「メニュー一覧表」（115ページ）を参照してください。

日時の設定

お買い上げ後初めて撮影をする前に、日時を設定してください。この日時は、ファイル名やファイル情報、画像上に貼り付けられる「タイムスタンプ」（42ページ）などに利用されます。

重要!
- 電池や、ACアダプターで電源が供給されないと、約24時間で日時がリセットされます。
- 時刻が点滅している場合は、日時設定がセットされていない、またはリセットされていることが考えられますので、日時設定をしてください。
- 日時設定を行わないと、間違った時間データによる「ファイル名」「タイムスタンプ」の機能が働いてしまいます。必ず設定してください。

日付と時刻を設定する

1. **【電源／ファンクションスイッチ】を“REC”または“PLAY”に合わせます。**

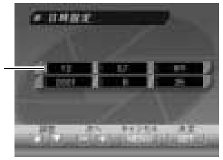
2. **【MENU】を押します。**

3. **“日時設定”を選び【SET/DISP】を押します。**

メニューのたどりかた：
RECモード時：“機能”→“設定”→“日時設定”
PLAYモード時：“設定”→“日時設定”

4. **設定項目を選び、日時を合わせます。**

緑色の印



【▶】または【◀】……… 緑色に点灯している印を移動させます。
【▲】または【▼】……… 緑色に点灯している印の部分の数字などを変えます。

5. **【SET/DISP】で決定します。**

6. **【⏲ 🏠】を押して終了します。**

日付の表示方法を変える

画面上での日付の表示方法を3通りの中から選ぶことができます。

1. **【電源／ファンクションスイッチ】を“REC”または“PLAY”に合わせます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“日付表示スタイル”を選び【SET/DISP】を押します。**

メニューのたどりかた：
RECモード時：“機能”→“設定”→“日付表示スタイル”
PLAYモード時：“設定”→“日付表示スタイル”

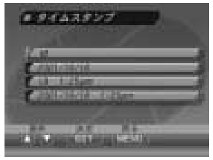
4. **【▲】または【▼】で設定内容を選び【SET/DISP】で設定します。**

例）2001年10月18日
年／月／日：01/10/18
日／月／年：18/10/01
月／日／年：10/18/01

5. **【⏲ 🏠】を押して終了します。**

タイムスタンプ

撮影時に画像の右下に日付や時刻を写し込むことができます。画像に写し込まれた日付や時刻は消すことはできません。



1. **【電源／ファンクションスイッチ】を“REC”に合わせます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“機能”→“タイムスタンプ”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **【▲】または【▼】で設定内容を選び【SET/DISP】で設定します。**

例）2001年10月18日　午後1時25分

切	：タイムスタンプは写し込まれません。
2001/10/18	：年／月／日
18 1:25pm	：日　時：分　午前／午後
2001/10/18 1:25pm	：年／月／日　時：分　午前／午後

基本撮影

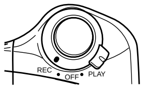
ここでは最も基本的な撮影方法や基本的な設定について説明します。

基本的な撮影

本機ではプログラムAE（Pモード）での撮影が基本となります。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に調整します。

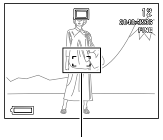
1. **電源を入れる前にレンズキャップをはずします。**

2. **【電源／ファンクションスイッチ】を“REC”に合わせます。**
【液晶モニター】に画像またはメッセージが表示されます。



REC　：RECモードになり、撮影できる状態になります。
PLAY：PLAYモードになり、再生できる状態になります。
OFF　：電源が切れます。

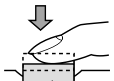
3. **【液晶モニター】に表示されている【オートフォーカスフレーム】を被写体に合わせます。**



【オートフォーカスフレーム】

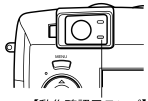
- 【ファインダー】から被写体を見るときはファインダー内のオートフォーカスフレームを被写体に合わせます。
- 【ファインダー】から被写体を見るときは【SET/DISP】を2回押して、【液晶モニター】を消してください。

4. **【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。**
- 半押し時にいったん画面が黒くなります。
- オートフォーカス機能により、自動的にピントが合います。



【シャッター】

- ピントは【オートフォーカスフレーム】や【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。



【動作確認用ランプ】

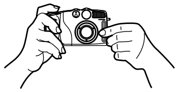
ピントが合う

【オートフォーカスフレーム】	：緑色点灯
【動作確認用ランプ】	：緑色点灯

ピントが合わない

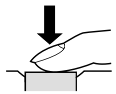
【オートフォーカスフレーム】	：赤色点灯
【動作確認用ランプ】	：緑色点滅

- レンズや各センサーを指でふさがないでください。



- 接写撮影したい場合は「近くを撮影する（マクロ）」（52ページ）を参照してください。

5. **ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。**



- 撮影された画像は、いったん本機に内蔵のバッファメモリーに記憶され、順次メモリーカードに保存されます。バッファメモリーがいっぱいになるまで、連続して撮影を続けることができます。
- 画質によって保存できる枚数が異なります。（56ページ）
- 手ぶれを起さないために、【シャッター】は静かに押してください。
- シャッター速度が遅いときや、望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため、三脚の使用をおすすめします。

■手ぶれ警告表示について

ズームを望遠側にしているときや、シャッター速度が遅くなると、（手ぶれ警告表示）が【液晶モニター】に表示されます。

重要!
- （手ぶれ警告表示）が出たら、三脚を併用してください。

撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の映像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーカードには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。

オートフォーカスのご注意

- 次ような被写体に対しては、ピントが合わないことがあります。ピントが合わない場合はピント合わせの方法をマニュアルに切り替えて（53ページ）撮影してください。

　－ 階調の無い壁などコントラストが少ない被写体
　－ 強い逆光のもとにある被写体
　－ 光沢のある金属など明るく反射している被写体
　－ ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
　－ カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
　－ 暗い場所にある被写体
　－ 手ぶれをしているとき

- ピントが合わない場合は自動的に下記の固定位置に焦点が調節されます。

　明るい場所での撮影：1.5m以上
　フラッシュを使用しての撮影：約2m

- 【動作確認用ランプ】が緑色に点灯していたり、【オートフォーカスフレーム】が緑色で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。

撮影時のご注意

- 【動作確認用ランプ】が緑色に点滅している間に【電池ブタ】を開けることは、絶対におやめください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊される恐れがあります。
- メモリーカードに記録中は、電池・ACアダプター、およびメモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー（人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき）を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。

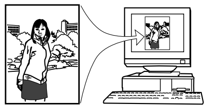
電池消耗時の画像記録について

電池が消耗し、バッテリー残量表示がになったときは、画像の記録もれを防ぐため1枚撮影するたびに"この画像の記録を中止"というメッセージが表示されます。【】を押すと、画像の記録がキャンセルされます。このメッセージが表示された場合はすみやかに新しい電池と交換してください。【】を押さなければ、そのまま数秒後に撮影した画像は記録されます。

- マイクロドライブ使用時はバッテリー残量表示がになったときに、メッセージが表示されます。
- パノラマモード、ムービーモードでは電池が消耗していなくてもメッセージが表示されます。
- 液晶オフ時は、このメッセージは表示されません。

縦横認識機能

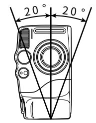
本機は撮影時に縦向きに撮影したか、横向きかの情報を画像データに記録します。その情報をもとに付属のソフト「Photo Loader」（102ページ）で画像をパソコン上に表示する際に、正しい向きで表示します。



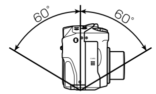
重要! • 撮影時に縦横変換センサーを働かせるために以下の点をご注意ください。

　－ デジタルカメラを静止させて撮影してください。デジタルカメラを移動しながら撮影すると、センサーが誤作動する場合があります。

　－ 縦位置で撮影する場合は、できるだけデジタルカメラを90°立てて撮影してください。傾けた状態で撮影すると、センサーが誤作動する場合があります。（90°立てた状態から20°以内を目安としてください）



　－ デジタルカメラを前後に寝かせて撮影すると、90°立てて撮影していてもセンサーが誤作動する場合があります。カメラを寝かせないようにして撮影してください。(60°寝かせた状態までを目安としてください)



　－ ムービー撮影には縦横変換センサーは対応しておりません。

最後に撮影した画像を確認する

RECモードでも最後に撮影した画像を表示することができます。

1. 【PREVIEW】を押します。
   最後に撮影した画像が、簡易画像で表示されます。
   - ムービーモードで撮影した画像は、最後の画像が表示されます。
   - 再度【PREVIEW】を押すと、RECモードに戻ります。
   - 電源を入れた直後やPLAYモードからRECモードに戻った直後に【PREVIEW】を押しても動作しません。

最後に撮影した画像を消去する

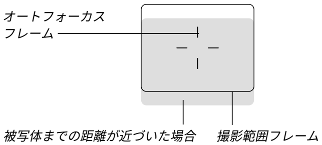
RECモードでも最後に撮影した画像を消去することができます。

重要! • 一度消去してしまった撮影内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要な画面かどうかをよく確かめてから行ってください。

1. 【PREVIEW】を押して、簡易画像を表示させます。
2. 【】を押します。
3. "はい"を選びます。
   - 消去を中止する場合は"いいえ"を選びます。
4. 【SET/DISP】を押します。
   - 最後に撮影した画像が消去され、RECモードに戻ります。

ファインダーを使用した撮影

【ファインダー】を覗きながら撮影する場合は、以下の内容に注意しながら撮影してください。

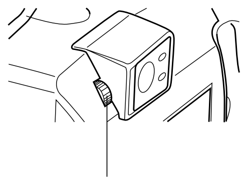


撮影範囲フレームは約3m離れた被写体を撮影した場合の範囲です。被写体の距離が近かったり遠かったりする場合、実際に写る範囲が異なります。
30cmより近い範囲で撮影するときには【/∞/MF RESIZE】を押してマクロ撮影モードにするか、マニュアルフォーカス撮影モードにしてから撮影してください。

- マクロ撮影モードにすると、自動的に【液晶モニター】がつきますので、【液晶モニター】をファインダーとして使用することをおすすめします。

- 【視度調整ダイアル】を使うと、【ファインダー】の度数を調整することができます。被写体が鮮明に見えるように調整してください。

※ 電源が切れている状態や再生モードでは、【ファインダー】のピントは合っていません。



【視度調整ダイアル】

ズームについて

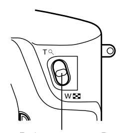
ズームには、光学ズーム／デジタルズームの2種類があります。

光学ズーム

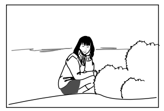
光学ズームはレンズの焦点距離を変更することによってズームすることができます。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1〜3倍
※ マクロモード時は1〜2倍となります。

1. RECモードにします。
2. 【ズームレバー】をスライドしてズームの倍率を変えます。
   W(WIDE)：広角になります。
   T(TELE)：望遠になります。



【ズームレバー】



W (WIDE)



T (TELE)

参考 • 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの開放値も変わります。望遠側では開放値が暗くなります。本機で表示している絞りの値は光学ズーム1倍時の値です。
• 望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため三脚の使用をおすすめします。

デジタルズーム

デジタルズームは画面の中央を拡大して記録します。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：2倍、4倍

1. RECモードにします。
2. 【MENU】を押します。
3. "機能"→"デジタルズーム"と選び【SET/DISP】を押します。
4. 設定内容を選び【SET/DISP】で設定します。

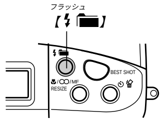
切　：デジタルズームは働きません。
オート：【ズームレバー】を操作して光学ズームが最も望遠になった後に、自動的に2倍、4倍の順でデジタルズームに切り替わります。
2倍　：常に2倍のデジタルズームになります。
4倍　：常に4倍のデジタルズームになります。

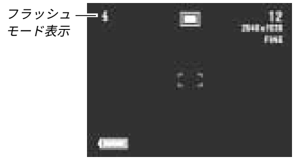
- 4倍時は画面上に枠が表示され、その部分のみが記録されます。また、記録される画像サイズは1024×768pixesのみになります。
- ムービーモード､パノラマモードでは4倍は使用できません。
- ベストショットモードでフレーム表示されている場合は、2倍、4倍ともに使用できません。

フラッシュについて

撮影条件に合わせてフラッシュをさまざまに調整することができます。

1. RECモードにします。
2. 【⚡ ▬】を押してフラッシュモードを選びます。





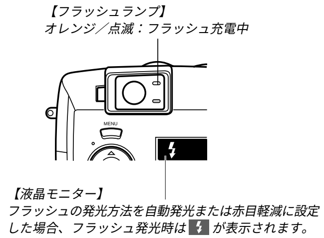
- 【⚡ ▬】を押すたびに【液晶モニター】や【コントロールパネル】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され切り替わります。

表示なし（自動発光）→ (発光禁止) → ⚡(強制発光) → ◎(赤目軽減)

表示なし（自動発光）：露出に合わせて自動的に発光します。
(発光禁止)　：露出に関係なく発光しません。
⚡(強制発光)　：露出に関係なく強制的に発光します。
◎(赤目軽減)　：プリ発光してから再度発光することで、フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や【フラッシュランプ】で確認できます。



フラッシュの光量を変える

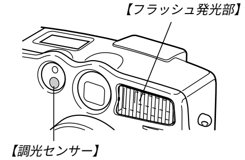
フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにします。
2. 【MENU】を押します。
3. "機能"→"フラッシュ光量"と選び【SET/DISP】を押します。
4. 設定内容を選び【SET/DISP】で設定します。

強　：強く光ります。
標準：標準です。
弱　：弱く光ります。

フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ発光部】や【調光センサー】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。



- フラッシュによる撮影距離は下記の通りです。この範囲外の被写体に対しては適切な効果が得られません。

約0.5m〜約4m　※絞り開放時

- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件（電池の種類、状態や温度等）により異なります。

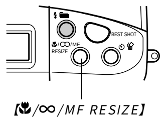
数秒〜40秒程度

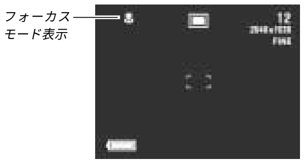
- ムービーモード, 連続撮影モードの場合はフラッシュは発光しません。このとき（発光禁止）が表示されます。
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあります。このとき（発光禁止）が点灯し、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことを示します。速やかに新しい電池と交換してください。
- ◎（赤目軽減モード）で被写体がカメラの方に視線を向けていない場合や被写体までの距離が遠い場合には赤目軽減効果が得られないことがあります。
- ◎（赤目軽減モード）では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所でのフラッシュ発光はしません。
- フラッシュを使用した場合は、ホワイトバランスが固定されるため、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

ピント合わせの方法を変える

ピント合わせの方法には、オートフォーカス、マクロ、無限遠、マニュアルフォーカスの4種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

1. RECモードにします。
2. 【🌷/∞/MF RESIZE】を押します。





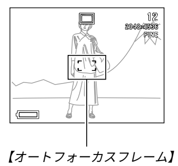
押すごとにフォーカスモードが切り替わります。
表示なし（オートフォーカス）→ 🌷(マクロ) → ∞(無限遠) → MF(マニュアルフォーカス)

自動でピントを合わせる（オートフォーカス）

オートフォーカスモードでは自動的にピントを合わせることができます。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	30cm〜∞
3倍	32cm〜∞

1. 【🌷/∞/MF RESIZE】を何回か押してフォーカスモードの表示を消します。
2. ピントを合わせたい被写体を【オートフォーカスフレーム】の中にとらえて、【シャッター】を半押しします。



- 【動作確認用ランプ】と【オートフォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。

状況	動作確認用ランプ	オートフォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

近くを撮影する（マクロ）

マクロモードでは近距離で自動的にピントを合わせることができます。近くのものを撮影（接写）するときに使用します。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	約6cm〜30cm
2倍	約9cm〜30cm

1. 【🌷/∞/MF RESIZE】を何回か押して🌷を表示させます。
2. 撮影します。
   - ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

- 【動作確認用ランプ】／【オートフォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

重要! • 撮影可能な範囲はレンズ前面のプロテクタから被写体までの距離です。
• マクロモードでの光学ズームは1倍〜2倍の範囲に制限されます。

遠くを撮影する（無限遠）

無限遠モードでは ∞（無限遠）付近で自動的にピントを合わせることができます。景色など遠景を撮影するときに使用します。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。

1. **【❀/∞/MF RESIZE】を何回か押して∞を表示させます。**

2. **撮影します。**

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモード（52ページ）と同じです。
- 【動作確認用ランプ】／【オートフォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

マニュアルフォーカスモードでは手動でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	6cm〜∞
3倍	18cm〜∞

1. **【❀/∞/MF RESIZE】を何回か押してMFを表示させます。**

2. **MFが点滅中に、【液晶モニター】で確認しながらピントを合わせます。**

【▲】：遠い側
【▼】：近い側

- MFが点滅している3秒間にキー操作がないと、ピントは決定し、MFは点灯に変わります。
- MFが点滅している間に【❀/∞/MF RESIZE】を押すと、他のフォーカスモードに切り替えることができます。

3. **【SET/DISP】を押すとMFが点灯に変わり、ピントが固定されます。**

- MFが点灯している間は、【▶】または【◀】でEVシフトが可能です。
- MFが点灯している間に【❀/∞/MF RESIZE】を押すとMFが点滅に変わり、ピント合わせができるようになります。

4. **【シャッター】を押して撮影します。**

- マニュアルフォーカスモードではオートフォーカスフレームは表示されません。

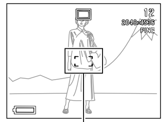
フォーカスロック

撮影したい構図で【オートフォーカスフレーム】に入らない被写体にピントを合わせる場合は、フォーカスロックを使います。フォーカスロックはオートフォーカスモード、マクロモード（❀）、無限遠モード（∞）で使用できます。

1. **RECモードにします。**

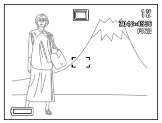
2. **ピントを合わせたい被写体を【オートフォーカスフレーム】の中にとらえて、【シャッター】を半押しします。**

- ピントが合うと【オートフォーカスフレーム】が緑色になります。



【オートフォーカスフレーム】

3. **【シャッター】を半押ししたまま、撮影する構図にレンズを向けます。**



4. **【シャッター】を全押しして撮影します。**

参考 • フォーカスロックと同時に露出もロックされます。

フォーカスエリアを指定する

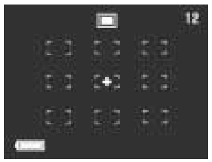
撮影したい構図で、ピントを合わせたい被写体がフォーカスエリアのある中央部にない場合は、上下左右にある【オートフォーカスフレーム】を指定して、ピント合わせを行うことができます。

1. **RECモードにします。**

2. **撮影する構図にレンズを向けます。**

3. **【SHIFT】を押したまま【▲】【▼】【◀】【▶】のいずれかを押して、被写体をとらえる位置にある【オートフォーカスフレーム】の上に「+」を移動します。**

- 【オートフォーカスフレーム】指定中は、「+」が表示されます。



4. **【SHIFT】から手を離し、【シャッター】を半押しします。**

- 【シャッター】を半押しすると、指定した位置の【オートフォーカスフレーム】が緑色／赤色点灯します。

5. **【シャッター】を全押しして撮影します。**

重要! • ベストショットモードで【フレーム】が表示されているときやムービーモードのときは、フォーカスエリアを指定することはできません（62、65ページ）。

画像のサイズと画質を変える

本機は、撮影する内容に応じて、画像のサイズと画質の切り替えができます。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **"機能"→"サイズ／画質"と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

●サイズ／画質と撮影可能枚数（JPEG形式のみ）

出力画素数 (pixels)	撮影画質	ファイルサイズ	コンパクトフラッシュカード8MB	マイクロドライブ340MB
2048×1536	高精細 FINE	約 1.4MB	約5枚	約245枚
	標準 NORMAL	約1MB	約6枚	約342枚
	エコノミー ECONOMY	約600KB	約11枚	約562枚
1024×768	高精細 FINE	約350KB	約19枚	約943枚
	標準 NORMAL	約250KB	約27枚	約1292枚
	エコノミー ECONOMY	約150KB	約43枚	約2054枚

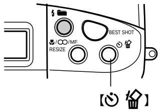
重要! • 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、記録枚数は変化します。
• 画像をJPEG形式とTIFF形式の両方で保存するとファイルサイズが大きくなるため、撮影可能枚数は大幅に少なくなります（78ページ）。
• 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。
• 1つのフォルダーに保存される画像数に制限（最大250枚）があるため、上記の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります。
• カードブラウザ（HTMLファイル）機能を"タイプ1〜4"にしている場合（110ページ）、上記撮影可能枚数と異なることがあります。

セルフタイマーを使う

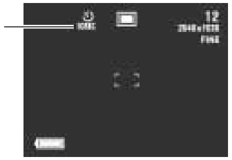
セルフタイマーは2通りの時間が設定できます。

1. **RECモードにします。**

2. **【⏲ 🏠】を押して時間を選びます。**



時間



- 【⏲ 🏠】を押すたびに【液晶モニター】と【コントロールパネル】に次の順で時間が表示され、切り替わります。

表示なし（切）：セルフタイマーは使用できません。
10SEC　：10秒後に撮影されます。
2SEC　：2秒後に撮影されます。

3. **【シャッター】を押して撮影します。**
- 【液晶モニター】に10秒または2秒からのカウントダウンが表示されます。
- カウントダウン表示中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

参考
- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒を利用すると手ぶれ防止になります。
- 連続撮影では、セルフタイマーは使用できません。（59ページ）

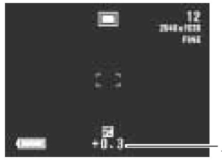
露出を補正する

本機は、露出モードがプログラムAE、絞り優先AE、シャッター速度優先AEの場合、撮影時の明るさに応じて、露出値（EV値）を下記の範囲で手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正値：－2EV ～ ＋2EV
補正単位　：1/3EV

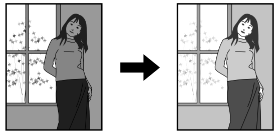
1. **露出モードをプログラムAE、絞り優先AE、シャッター速度優先AEのいずれかにします（68ページ）。**

2. **【▶】または【◀】を押して露出補正（EVシフト）します。**
- 【液晶モニター】に露出補正値が表示されます。

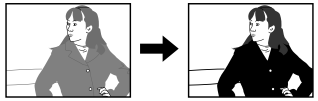


露出補正表示

【▶】：＋方向に補正されます。白い物の撮影や逆光での撮影のときに押します。



【◀】：－方向に補正されます。黒い物の撮影や晴天の野外などのときに押します。



- 露出補正値をリセットする場合は、反対方向に露出補正し、EVを消してください。
- パノラマモードでは1枚目を撮影したときに露出補正値が固定されます。

3. **適切な明るさになったら【シャッター】を押して撮影します。**

重要!
- 明るすぎたり、暗すぎたりする場合は、露出補正ができない場合があります。

応用撮影

本機は、さまざまな機能の切り替えにより、多彩な応用撮影ができます。

- ベストショットモード、ムービーモード、パノラマモード、Aモード（絞り優先AE）、Sモード（シャッター速度優先AE）、Mモード（マニュアル露出）で撮影を行う場合は、【液晶モニター】をご利用ください。

連続して撮る（連続撮影モード）

【シャッター】を押し続けることで、約0.5秒間隔で最大3枚の連続撮影ができます。

- 連続撮影は、ポートレートモード、風景モード、夜景モード、ベストショットモード、Pモード（プログラムAE）、Aモード（絞り優先AE）、Sモード（シャッター速度優先AE）でのみ使用できます。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“機能”→“連続撮影”（連続撮影モード）と選び【SET/DISP】を押します。**

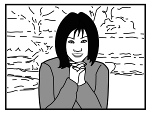
4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**
入：連続撮影となります。
切：1枚撮影となります。

5. **【シャッター】を押して撮影します。**

重要!
- 連続撮影では、フラッシュは発光しません。
- 連続撮影では、セルフタイマーは使用できません。
- TIFFモードが“入”のときは、連続撮影はできません（78ページ）。
- シャッター速度が遅くなると、0.5秒間隔よりも遅くなる場合があります。
- 夜景モードやSモードでシャッター速度固定時にシャッター速度が遅くなる場合は、撮影枚数が2枚までとなります。
- ベストショットモードでは、シーンのサンプル画像の種類によっては連続撮影できない場合があります。
- バッテリー残量表示が ▭ になった状態で撮影しないでください。
- メモリーカードへのデータ記録時間は、約14秒（3枚撮影時）かかります。
- メモリーカードに記録中は、電池・ACアダプター、およびメモリーカードを抜かないでください。

ポートレートを撮る（ポートレートモード）

背景が適度にぼやけ、人物を浮き立たせるように撮影できます。



1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

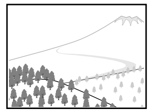
3. **“ポートレート”（ポートレートモード）を選び【SET/DISP】を押します。**

4. **【シャッター】を押して撮影します。**

参考
- 光学ズームを望遠側にして撮影すると背景がさらにぼやけ、効果的なポートレートが撮影できます。

風景を撮る（風景モード）

近景から遠景までを鮮明に撮影することができます。



1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

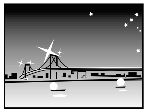
3. **“風景”（風景モード）を選び【SET/DISP】を押します。**

4. **【シャッター】を押して撮影します。**

参考
- 光学ズームを広角側にして撮影すると、近景から遠景までの奥行感や、横の広がりも表現することができます。
- 室内や日陰などの暗いところでは、近景にピントを合わせた場合、遠景が鮮明に写らない場合があります。

夜景を撮る（夜景モード）

長時間露光をすることにより、夜景を美しく撮影することができます。



1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “夜景”（夜景モード）を選び【SET/DISP】を押します。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

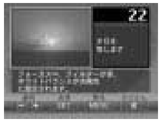
参考
- 夕暮れや夜景などを背景に人物を撮影する場合などに夜景モードとフラッシュを組み合わせることで、背景と人物をきれいに撮影することができます（スローシンクロ撮影）。

重要!
- 夜景モードではシャッター速度が遅くなるので、必ず三脚を使用し、本機を固定してください。
- 暗い所ではピントが合いづらいことがあります。そのときはマニュアルフォーカス（53ページ）をお使いください。また、動きの速い被写体ではぶれる場合があります。
- シャッター速度が遅くなるため、画面に表示される画像と実際に記録される画像が一致しないことがあります。
- コントラスト（77ページ）の設定を変更しても変化はありません。

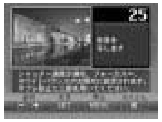
さまざまなシーンを選んで撮る（ベストショットモード）

28種類のシーンの中から撮影したいシーンのサンプル画像を選ぶと、自動的にそのシーンに最適な設定になります。

■撮影例



夕日を撮りたい場合は、“夕日を写します”を選びます。

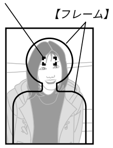


夜景を撮りたい場合は、“夜景を写します”を選びます。

- シーンの種類については、同梱の「ベストショット撮影一覧表」をご覧ください。

■フレームについて

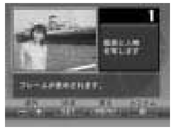
選んだシーンによっては【液晶モニター】に【フレーム】が表示されます。フレームに被写体を合わせることでバランスのよい構図で撮影することができます。【オートフォーカスフレーム】もシーンに合った位置に表示されます。



例：バストアップを写します

1. RECモードにします。

2. 【BEST SHOT】を押します。
- 【MENU】を押して“ベストショット”（ベストショットモード）を選び【SET/DISP】を押しても、シーンのサンプル画像が表示されます。



3. 【▶】または【◀】で撮影したいシーンのサンプル画像を表示させます。
- 自分で各種設定を記録させること（カスタム登録）ができます（63ページ）。

4. 【SET/DISP】を押します。

5. 【シャッター】を押して撮影します。

参考
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
- 被写体の条件によっては、充分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンのサンプル画像の各種設定内容は、変更することができます。
- 【BEST SHOT】を押すと、最後に選択されたシーンのサンプル画像が表示されます。

ベストショットモードの画像選択方法を設定する

ベストショットモードで使うシーンのサンプル画像の種類を選択する方法を変えることができます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “機能”→“ベストショット設定”と選び【SET/DISP】を押します。

4. 設定内容を選び【SET/DISP】を押します。

内蔵＋CF	：	本機内蔵の28種類のサンプル画像から選択したあと、メモリーカードに登録されているサンプル画像から選択する
内蔵	：	本機内蔵の28種類のサンプル画像からのみ選択する
CF	：	メモリーカードに登録されているサンプル画像からのみ選択する

参考
- メモリーカードへのサンプル画像の登録については64ページをご覧ください。
- メモリーカードにベストショットモード用のサンプル画像が登録されていないときは「内蔵＋CF」や「CF」を選んでも、本機内蔵の28種類のサンプル画像から選択します。

撮影したいシーンを登録する（カスタム登録）

今まで撮影した画像の設定内容をベストショットモードに読み込んで、呼び出すことができます。呼び出した画像の設定内容と同じ内容で撮影することができます。

- 登録される設定内容
  フォーカスモード、絞り（A、Mモード時）、シャッター速度（S、Mモード時）、EVシフト、感度、フィルター、露出モード、測光方式、ホワイトバランス、色強調、フラッシュ光量、シャープネス、彩度、コントラスト、フラッシュモード
- QV-3500EXで撮影された画像からのみ設定内容を読み取ることができます。
- 登録可能件数
  最大25件（付属のCD-ROMからメモリーカードに取り込んだ画像を含む）

1. RECモードにします。

2. 【BEST SHOT】を押します。
- 【MENU】を押して“ベストショット”（ベストショットモード）を選び【SET/DISP】を押しても、シーンのサンプル画像が表示されます。

3. 【⏲ 🏠】を押します。

4. 【▶】または【◀】で読む込む画像を選び【SET/DISP】を押します。
- 登録が完了し、撮影できる状態になります。以降、62ページと同じ操作により、この設定を選んで撮影することができます。



5. 【シャッター】を押して撮影します。

参考
- 【BEST SHOT】を押すと、最後に選択されたシーンのサンプル画像が表示されます。
- 各シーンのサンプル画像の設定状態は、メニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- カスタム登録した画像を消去したい場合は、パソコンを使ってメモリーカードの「SCENE」フォルダ内から消去したい画像のファイルを削除してください（65、107ページ）。

撮影したいシーンをCD-ROMから取り込む（ベストショットライブラリ）

付属のCD-ROMに記録されているシーンのサンプル画像（64種類のシーン）をメモリーカードを使って本機に取り込んで、ベストショットモードで呼び出すことができます。

- シーンの種類については、同梱の「ベストショット撮影一覧表」をご覧ください。

1. メモリーカードを次のどちらかの方法でパソコンに接続します。
   (1)デジタルカメラのUSB端子を使って接続する（102ページ）。
   (2)パソコンに直接接続する（105ページ）。
- サンプル画像はメモリーカード内の「SCENE」フォルダに登録しますので、メモリーカードは必ず「SCENE」フォルダが作成されているものを使用してください。
- 「SCENE」フォルダは、本機にメモリーカードを差し込んで、最初に【電源／ファンクションスイッチ】を“REC”または“PLAY”に合わせたときに自動的に作成されます。

2. 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

3. Windowsを使用する場合は、「マイコンピュータ」からCD-ROMドライブを開きます。
- Macintoshを使用する場合は、この操作は必要ありません。

4. 「CASIO」→「BestShot Library」→「QV3500EX」→「日本語版」とフォルダを開き、登録したいサンプル画像ファイルをメモリーカードの「SCENE」フォルダにコピーします。
   - 英語のサンプル画像を取り込みたいときは「日本語版」のかわりに「英語版」のフォルダを開いてください。

5. メモリーカードをデジタルカメラに入れます。

6. ベストショットモードの画像選択方法を「内蔵+CF」または「CF」に設定します(63ページ)。

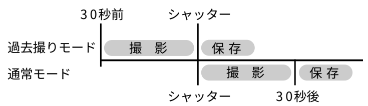
7. 62ページと同じ操作により、取り込んだサンプル画像ファイルを選び撮影します。

重要!
- ベストショットモードの画像選択画面には、メモリーカードに登録した順番でサンプル画像が表示されます。
- メモリーカードをフォーマットすると、ベストショットモードのシーンのサンプル画像は消えてしまいますので、その場合は必要に応じて再度サンプル画像を取り込んでください(38ページ)。

参考
- CD-ROMから取り込んだ画像を消去したい場合は、パソコンを使ってメモリーカードの「SCENE」フォルダ内から消去したい画像のファイルを削除してください(107ページ)。

動画を撮る(ムービーモード)

最大30秒まで動画を撮影することができます。ムービー撮影には【シャッター】を押した直前(過去撮りモード)と押した直後(通常モード)の2通りの撮影方法があります。過去撮りモードで撮影すると、シャッターチャンスを逃すことなく撮影することができます。



- ファイル形式:AVI
  AVI形式は、Open DMLグループが提唱したMotion JPEGフォーマットに準拠しています。
- 画像のサイズ:320×240 pixels
- 動画の記憶容量
  記憶容量:約300KB/秒
  一度に撮影可能なムービーの最長時間:30秒

通常モードで撮影する

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "ムービー"(ムービー通常モード)を選び【SET/DISP】を押します。

4. 撮影する被写体にカメラを向け【シャッター】を半押しします。
   - 半押しし続けている間、被写体の動きに応じてオートフォーカスでピント合わせが続きます。

5. 【シャッター】を全押しします。
   - 30秒間撮影が続きます。
   - 30秒以内のムービーを撮影する場合は、【シャッター】を押すことで撮影を終えることができます。

過去撮りモードで撮影する

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "ムービー(過去)"(ムービー過去モード)を選び【SET/DISP】を押します。

4. 撮影する被写体にカメラを向け【シャッター】を半押しします。
   - 半押しし続けている間、被写体の動きに応じてオートフォーカスでピント合わせが続きます。

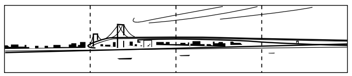
5. 撮影する被写体にカメラを向け【シャッター】を全押しします。
   - 被写体の動きに応じてオートフォーカスでピント合わせが続きます。

6. 被写体を追い続け、決定的瞬間が終わったら【シャッター】を全押しします。
   - 【シャッター】を押した時点からさかのぼって30秒間が記録されます。
   - 手順5で【シャッター】を押してから、30秒以内に【シャッター】を押したときは、手順5で【シャッター】を押した時点までの時間で撮影されます。

重要!
- ムービーモードでは、フラッシュは発光しません。
- パソコンでAVIファイルを見る場合は、付属のCD-ROMに収録されているQuickTimeをインストールしてください。

パノラマ画像を撮る(パノラマモード)

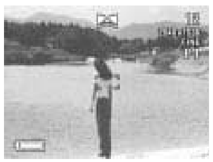
複数の画像を画面上でつなぎ合わせながら、パノラマ画像を撮影することができます。



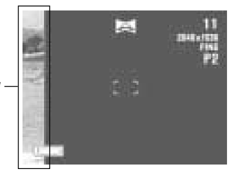
1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "パノラマ"(パノラマモード)を選び【SET/DISP】を押します。



4. 【シャッター】を押して撮影します。
   - 1枚目に撮影した画像が残像になって、画面左端に表示されます。



5. 2枚目以降は、前回の残像と今回の被写体が重なるよう合わせて、【シャッター】を押して撮影を続けます。

6. 必要な枚数を撮影したら【MENU】を押します。
   - 最大10枚までの画像をつなぎ合わせることができます。

参考
- パノラマモード時の露出とホワイトバランスは、1枚目を撮影したときの状態で固定されたまま、2枚目以降の撮影をします。

露出の方法を変える

撮影時の絞りとシャッター速度の決定方法(露出モード)は、次のように変えることができます。
この露出モードは各撮影モードでも切り替えることができます。

Pモード:プログラムAE
Aモード:絞り優先AE
Sモード:シャッター速度優先AE
Mモード:マニュアル露出

プログラムAE

Pモード(プログラムAE)では被写体の明るさに応じてシャッター速度と絞りが自動的に調整されます。

1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

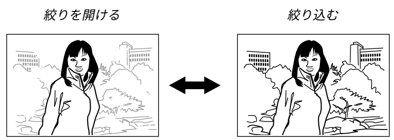
3. "機能"→"露出モード"と選び【SET/DISP】を押します。

4. "P(プログラム)"を選び【SET/DISP】を押します。

5. 【シャッター】を押して撮影します。

絞り優先AE

Aモード(絞り優先AE)では任意の絞りに固定して撮影することができます。絞りを開けるとピントが合う範囲が狭くなり、逆に絞り込むとピントの合う範囲が広くなります。シャッター速度は自動的に調整されます。



- 設定できる絞り

絞り値	開ける ←→ 絞る F2 • F2.3 • F2.8 • F4 • F5.6 • F8

1. RECモードにします。

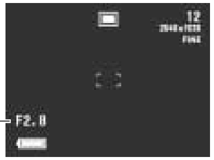
2. 【MENU】を押します。

3. "機能"→"露出モード"と選び【SET/DISP】を押します。

4. “A（絞り優先）”を選び【SET/DISP】を押します。

5. 【▲】または【▼】で絞り値を指定します。

絞り値



【▲】：絞る
【▼】：開ける

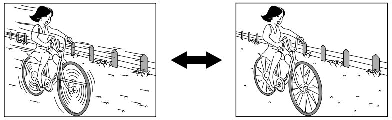
6. 【シャッター】を押して撮影します。

重要! • 被写体が暗すぎたり、明るすぎるときは適正な明るさで撮影できない場合があります。そのときは絞りを適正な値に変更してください。
• マクロモードのときは、設定できる絞りはF4、F5.6、F8のみとなります（52ページ）。

シャッター速度優先AE

Sモード（シャッター速度優先AE）では任意のシャッター速度に固定して撮影することができます。被写体の動きに応じたシャッター速度が設定できます。絞りは自動的に調整されます。

遅い（1/30）　　　速い（1/1000）



• 設定できるシャッター速度

シャッター速度	遅い ←→ 速い	
	BULB（バルブ）、60秒 ←→ 1/1000秒	

1. RECモードにします。

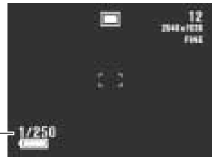
2. 【MENU】を押します。

3. “機能”→“露出モード”と選び【SET/DISP】を押します。

4. “S（シャッター速度優先）”を選び【SET/DISP】を押します。

5. 【▲】または【▼】でシャッター速度を指定します。

シャッター速度



【▲】：速い
【▼】：遅い

6. 【シャッター】を押して撮影します。

重要! • 被写体が暗すぎたり、明るすぎるときは適正な明るさで撮影できない場合があります。そのときはシャッター速度を適正な値に変更してください。
• “BULB”に設定している場合は【シャッター】を押し込んでいる間露光し、【シャッター】を離すと露光を終了します。手ぶれ防止のためにリモコン（別売品）の使用をおすすめします。
• “BULB”に設定している場合のシャッター速度は最長60秒です。
• “BULB”に設定している場合、セルフタイマー撮影はできません。
• CCDの特性上、シャッター速度が遅くなると撮影した画像にノイズが発生します。そのため、シャッター速度が1秒以上遅くなると、自動的にノイズ軽減処理を行っています。ただし、シャッター速度が遅くなるほど、ノイズは目立って発生します。また、ノイズ軽減処理のために撮影時間がシャッター速度の2倍になります。
• シャッター速度を1／8秒より遅くした場合は【液晶モニター】で見える明るさと撮影された画像の明るさが異なる場合があります。また、撮影時にAEの範囲外になり最適な絞りにならない場合があります。

マニュアル露出

Mモード（マニュアル露出）ではシャッター速度、絞り値を自由に設定して撮影することができます。

• 設定できるシャッター速度はシャッター速度優先AE時と同じです。
• 設定できる絞りは絞り優先AE時と同じです。

1. RECモードにします。

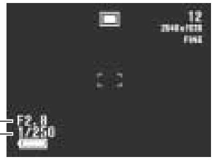
2. 【MENU】を押します。

3. “機能”→“露出モード”と選び【SET/DISP】を押します。

4. “M（マニュアル露出）”を選び【SET/DISP】を押します。

5. 【▶】または【◀】でシャッター速度を指定し、【▲】または【▼】で絞り値を指定します。

絞り値
シャッター速度



• シャッター速度
【▶】：速い
【◀】：遅い

• 絞り値
【▲】：絞る
【▼】：開ける

6. 【シャッター】を押して撮影します。

重要! • シャッター速度を1／8秒より遅くした場合は【液晶モニター】で見える明るさと撮影された画像の明るさが異なる場合があります。

簡単に露出モードを変える

メニューをたどらずに露出モードを簡単に切り替えることができます。

1. RECモードにします。

2. 【SHIFT】を押したまま【⚡/📁】を押して露出モードを切り替えます。

• P（プログラムAE）→ A（絞り優先AE）→ S（シャッター速度優先AE）→ M（マニュアル露出）の順で切り替えることができます。

測光方式を変える

測光方式の変更ができます。

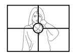
1. RECモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “機能”→“測光方式”と選び【SET/DISP】を押します。

4. 設定内容を選び【SET/DISP】を押します。

マルチ（マルチパターン）：
画面の全体を分割して測光します。バランスの取れた露出が得られます。



中央重点：
中央部を重点的に測光します。



スポット：
フォーカスエリアのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。



簡単に測光方式を変える

メニューをたどらずに測光方式を簡単に切り替えることができます。

1. **RECモードにします。**

2. **【SHIFT】を押したまま【✿/∞/MF RESIZE】を押して測光方式を切り替えます。**

- （マルチ）→（中央重点）→（スポット）の順で切り替えることができます。

感度を変える

感度が変更できます。使用目的に応じて感度を設定してください。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“機能”→“感度”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

ISO 100：ISO 100相当
ISO 180：ISO 180相当
ISO 300：ISO 300相当
ISO 500：ISO 500相当

重要!
- 感度を上げると画像のノイズが増加します。使用目的に応じて感度設定をしてください。
- 感度を上げるとオートフォーカスの精度が悪くなる場合があります。また、オートフォーカスの動作が可能な最低限の明るさは変わりません。
- フラッシュを使用しての撮影ではこの設定にかかわらず“ISO 100”で撮影されます。
- Sモード（シャッター速度優先AE）ではこの設定は無効となり“ISO 100”になります。

色を変える（フィルター）

フィルター機能を使用して撮影時の画像の色を変更することができます。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“機能”→“フィルター”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

切／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ピンク／紫

参考
- フィルター機能ではレンズの前に色付きのセロファンを付けたような効果が画面全体に出ます。色強調（76ページ）は画像の特定の色成分のみを強調します。
- 色強調（76ページ）とフィルターが設定されている場合はフィルターが優先され、色強調が無効になります。

ホワイトバランスを変える

ホワイトバランスとは、被写体を自然な色合いで撮影できるように白を基準に調整することです。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“機能”→“ホワイトバランス”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

オート　　：自動的にホワイトバランスを調整します。
太陽光　　：屋外での撮影時
日陰　　　：日陰で青みがかるとき
電球　　　：電球下で赤みがかるとき
蛍光灯　　：蛍光灯下で緑がかるとき
マニュアル：現在の光源に合わせて手動で設定します。「マニュアルホワイトバランスの設定」（75ページ）を参照ください。

参考
- 夜景モードにしたときは、ホワイトバランスは“太陽光”に合わせています。必要に応じてホワイトバランスを調整してください。

マニュアルホワイトバランスの設定

ホワイトバランスの“オート”では光源によって自動調整の処理に時間がかかったり、調整できる範囲（色温度）に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定は、白い紙などを画面に一杯に写した状態で行ってください。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“機能”→“ホワイトバランス”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **“マニュアル”を選び【SET/DISP】を押します。**

5. **画面全体に白い紙などを写した状態で【SET/DISP】を押します。**

- 【SET/DISP】を押すとホワイトバランスが調整され、撮影ができる画面に戻ります。
- 【SET/DISP】のかわりに【 】を押すと、前回設定したマニュアルホワイトバランスの設定になります。
- 暗い所や色の濃いものでホワイトバランスを調整すると時間がかかりますので、そのような条件で調整しないでください。

参考
- 電源を切ったり、ホワイトバランスを“オート”などから“マニュアル”に戻した場合でも、前回設定したマニュアルホワイトバランスの設定内容はモードメモリーの入／切にかかわらず記憶されています。

簡単にホワイトバランスを変える

メニューをたどらずにホワイトバランスを簡単に切り替えることができます。

1. **RECモードにします。**

2. **【SHIFT】を押したまま【 】を押してホワイトバランスを切り替えます。**

- AWB（オート）→（太陽光）→（日陰）→（電球）→（蛍光灯）→ MWB（マニュアル）の順で切り替えることができます。
- マニュアルホワイトバランスの設定はMWB（マニュアル）を選び、画面に白い紙が画面一面に写るようにして【SHIFT】を押しながら【SET/DISP】を押します。

色を強調する

撮影時に特定の色を強調することができます。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“機能”→“色強調”と選び【SET/DISP】を押します。**

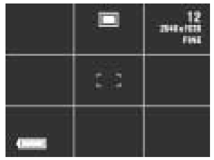
4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

切　　　：色の強調はしません。
赤強調　：赤色の成分が強調されます。
緑強調　：緑色の成分が強調されます。
青強調　：青色の成分が強調されます。
肌色強調：肌色の成分が強調されます。

参考
- フィルター機能（74ページ）ではレンズの前に色付きのセロファンを付けたような効果が画面全体に出ます。色強調は画像の特定の色成分のみを強調します。
- 色強調とフィルター（74ページ）が設定されている場合は、フィルターが優先され、色強調が無効になります。

グリッドを表示する

撮影時、【液晶モニター】に方眼を表示します。被写体の水平や垂直を保つのに便利です。



1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“機能”→“グリッド表示”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

入：グリッドを表示します。
切：グリッドは表示しません。

シャープネスを変える

被写体の輪郭を補正します。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“ 機能 ”→“ シャープネス ”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

ハード：画像がくっきり撮影されます。
標準　：補正はされません。
ソフト：画像がやわらかく撮影されます。

彩度を変える

色の鮮やかさが変更できます。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“ 機能 ”→“ 彩度 ”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

高　：色が濃く撮影されます。
標準：補正はされません。
低　：色が淡く撮影されます。

コントラストを変える

明暗の差を変更することができます。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“ 機能 ”→“ コントラスト ”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

高　：明暗の差が大きくなります。
標準：補正はされません。
低　：明暗の差が小さくなります。

参考
- 夜景モードでは効果はありません。

撮影した画像を圧縮しないで保存する（TIFFモード）

撮影した画像をTIFF形式（非圧縮）で保存することができます。圧縮の工程を行わないため、JPEG形式（圧縮）より鮮明な画質で画像を保存できます。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“ 機能 ”→“ TIFFモード ”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

入： 画像をJPEG形式（圧縮）に加えてTIFF形式（非圧縮）でも同時に保存します。
切： 画像をJPEG形式（圧縮）でのみ保存します。

重要!
- 画像をTIFF形式で保存する場合、JPEG形式よりデータ保存に時間がかかります。
- TIFFモードを“ 入 ”にするとJPEG形式とTIFF形式の両方で画像を保存するため、ファイルサイズが大きくなり、撮影可能枚数は大幅に少なくなります（56ページ）。

●TIFF形式のファイルサイズ

保存形式	出力画素数(pixels)	ファイルサイズ
TIFF形式	2048×1536	約9MB
	1024×768	約2.3MB

- JPEG形式とTIFF形式の両方で保存した画像からJPEG形式の画像を消去すると、TIFF形式の画像も同時に消去されてしまいます。
- TIFF形式の画像のみを消去することはできません。
- TIFF形式の画像は、付属のソフト「Photo Loader」（102ページ）を使用してパソコンに転送することはできません。
- TIFFモードが“ 入 ”のときは、連続撮影はできません（59ページ）。

各種設定を記憶させる（モードメモリ）

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源の入／切で毎回設定をし直す手間がはぶけます。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“ 機能 ”→“ モードメモリ ”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **設定したい機能を選び【SET/DISP】を押します。**

5. **設定内容を選び【SET/DISP】を押します。**

入：電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
切：電源を切ったときに初期値に戻ります。

●モードメモリで設定できる機能

機能	入	切（初期値）
撮影モード	最後のモード	通常
連続撮影		通常
TIFFモード		通常
感度		ISO 100
露出モード		P（プログラム）
測光方式		マルチ
ホワイトバランス		オート
フラッシュ		自動発光
フォーカス方式		オートフォーカス
デジタルズーム		オート
フラッシュ光量		標準

6. **【⏲ 🏠】を押します。**

各種設定のリセット

本機の設定内容を初期値に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」（115ページ）をご覧ください。

1. **RECモードまたはPLAYモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“ リセット ”を選び【SET/DISP】を押します。**

メニューのたどりかた：
RECモード時：“ 機能 ”→“ 設定 ”→“ リセット ”
PLAYモード時：“ 設定 ”→“ リセット ”

4. **“ はい ”を選び【SET/DISP】を押します。**

- リセットしない場合は“ いいえ ”を選びます。

ショートカット機能

ショートカット機能とは、メニューをたどる操作の一部を省略できる機能です。【SHIFT】を使って操作します。

簡単に露出モード／測光方式／ホワイトバランスを変える

メニューをたどらずに露出モード、測光方式、ホワイトバランスを簡単に切り替えることができます。RECモードのみでできます。

1. **RECモードにします。**

2. **【SHIFT】を押したまま、下記のいずれかのボタンを押します。押すたびに設定内容が変わります。**

- 詳しくは下記の参照ページをご覧ください。

【⚡ 📁】　：露出モードの切り替えができます。（72ページ）
【🌷/∞/MF RESIZE】：測光方式の切り替えができます。（73ページ）
【⏲ 🏠】　：ホワイトバランスの切り替えができます。（75ページ）

よく設定を変える項目を登録する（キーカスタマイズ）

【SHIFT】を押したまま、【⚡ 📁】、【🌷/∞/MF RESIZE】、【⏲ 🏠】のいずれかのボタンを押すと、メニュー画面をたどらずにあらかじめ登録した項目の設定用の画面が表示されます。頻繁に設定を変える項目を登録しておくと便利です。RECモードのみで使用できます。

1. **RECモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **メニューをたどり、“ 機能 ”の中の登録したい設定項目の画面を表示させます。**



例：フィルターの設定画面

- 登録できる項目は「メニュー一覧表」（115ページ）をご覧ください。

4. **【SHIFT】を押したまま、【⚡ 📁】、【🌷/∞/MF RESIZE】、【⏲ 🗑】のいずれかのボタンを同時に押しつづけます。**
- ボタン1つにつき1つだけショートカットしたい画面が登録できます。
- 登録が完了すると撮影ができる状態に戻ります。

■登録したショートカットを使う

1. **【SHIFT】を押したまま下記のいずれかのボタンを押します。**

【⚡ 📁】：“ SET1 ”と表示されます。
【🌷/∞/MF RESIZE】：“ SET2 ”と表示されます。
【⏲ 🗑】：“ SET3 ”と表示されます。

- 登録されているボタンは上記のように表示されます。

2. **登録したメニュー画面が表示されますので設定を変更します。**

重要!
- 【⚡ 📁】、【🌷/∞/MF RESIZE】、【⏲ 🗑】に登録を行うと、登録したボタンの機能「簡単に露出モード／測光方式／ホワイトバランスを変える」（80ページ）は使用できなくなります。
もとに戻したい場合は、それぞれのボタンに下記の設定用の画面を登録し直してください。

【⚡ 📁】：露出モード
【🌷/∞/MF RESIZE】：測光方式
【⏲ 🗑】：ホワイトバランス

- 設定内容のリセット（79ページ）を行うと、ショートカットの登録は解除されます。

簡単に設定内容を変える

メニューをたどらずに簡単に“ 機能 ”のメニューが表示できます。また、メニューの一覧画面で【▶】または【◀】を押すと簡単に設定ができます。RECモードのみでできます。

1. **RECモードにします。**

2. **【SHIFT】を押したまま【MENU】を押します。**
- “ 機能 ”のメニューが表示されます。

3. **【▲】または【▼】で設定したい項目を選びます。**



例：シャープネス

4. **【▶】または【◀】で設定します。**

5. **【⏲ 🗑】を押して終了します。**

再生する

本機は【液晶モニター】を備えているので、記録されている内容を本機だけで確認することができます。

基本的な再生のしかた

記録されている画像を順次送ったり戻したりしながら見ることができます。

1. **【電源／ファンクションスイッチ】を“ PLAY ”に合わせます。**
- PLAYモードになり、再生できる状態になります。

2. **【▶】または【◀】で画像を見て行きます。**



【▶】：進みます。
【◀】：戻ります。

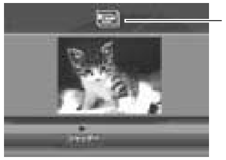
参考
- 【▶】または【◀】を押しつづけると画像が早く送られます。
- 初めに表示される画像は簡易画像のため、粗い表示になっていますが、約3秒後に精細な画像が表示されます。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像では、この限りではありません。

動画を再生する

ムービーモードで撮影した動画を再生することができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【▶】または【◀】でムービーモードで撮影した動画を表示させます。**



3. **【シャッター】を押すと動画が再生されます。**
- 他のキーでさまざまな操作ができます。

【SET/DISP】：全画面と1/4画面を切り替えます。
【▶】：正しい方向で再生します。
【◀】：逆方向に再生します。
【シャッター】：再生と一時停止を切り替えます。
- 一時停止中に【▶】または【◀】を押すとコマ送りができます。

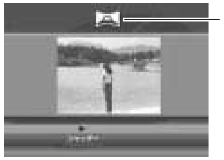
【MENU】：終了します。

パノラマ画像を再生する

パノラマモードで撮影した画像をスクロールして再生することができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【▶】または【◀】でパノラマモードで撮影した画像を表示させます。**



3. **【シャッター】を押すとパノラマ画像が再生されます。**
- 再生中は他のキーでさまざまな操作ができます。

【SET/DISP】：全画面と縮小画面を切り替えます。
【▶】：右方向にスクロールします。
【◀】：左方向にスクロールします。
【シャッター】：再生と一時停止を切り替えます。
- 一時停止中に【▶】または【◀】を押すとコマ送りができます。

【MENU】：終了します。

画像を拡大して表示する

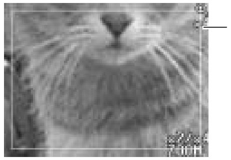
撮影した画像を拡大して表示させることができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【▶】または【◀】で拡大したい画像を表示させます。**

3. **【ズームレバー】をT（TELE）/🔍側にスライドして、画像を拡大します。**
- 【ズームレバー】をスライドすると画面に枠が表示される場合があります。この枠は画像の一部を切り抜く（トリミング）ときに使用します（89ページ）。





4. **【ズームレバー】で1倍、2倍、4倍の表示切替ができます。**

- 拡大中は他のキーでさまざまな操作ができます。
  【SET/DISP】：操作ガイドを表示します。
  【▶】：右方向にスクロールします。
  【◀】：左方向にスクロールします。
  【▲】：上方向にスクロールします。
  【▼】：下方向にスクロールします。
  【ズームレバー】：1倍、2倍、4倍と切り替えます。
  【MENU】：終了します。

重要! • 動画とパノラマ画像は拡大表示できません。

参考 • 通常表示（1倍表示）から【ズームレバー】をW(WIDE)/▦側にスライドすると、9画面表示に切り替わります。

1つの画面に9つの画像を表示する

撮影した内容を9つまで同時に一覧表示させることができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【ズームレバー】をW(WIDE)/▦側にスライドします。**
- 最初に表示していた画像を先頭に9つの画像が表示されます。

1	2	3
4	5	6
7	8	9

【▶】→ ←【◀】

10	11	12
13	14	15
16	17	18

【▶】→ ←【◀】

19	20	21
22	23	24
25		

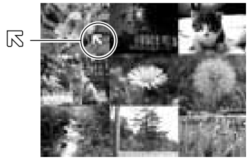
【◀】：進みます。
【▶】：戻ります。

3. **【▶】、【◀】、【SET/DISP】以外のボタンを押すと9画面表示は終了します。**

目当ての画像を素早く表示する

1. **9画面表示に切り替えます。**

2. **【SET/DISP】を押します。**
- ⇱が表示されます。



3. **【▲】【▼】【◀】【▶】で⇱を目当ての画像に移動させて【SET/DISP】を押します。**
- 目当ての画像が1枚で表示されます。



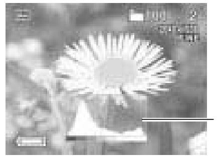
ヒストグラムを表示する

画像の輝度成分をヒストグラム表示させることにより、撮影したときの露出をチェックすることができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【▶】または【◀】でヒストグラムを表示したい画像を表示させます。**

3. **【SET/DISP】を数回押して、ヒストグラムを表示します。**
- 【SET/DISP】を押して【液晶モニター】に表示される内容については「液晶モニターの表示内容を切り替える」（25ページ）をご覧ください。



4. **【▶】または【◀】で画像を切り替えることができます。**

5. **【SET/DISP】を数回押して、ヒストグラム表示を終了します。**

重要! • 動画（83ページ）再生時には、ヒストグラムは表示されません。
• パノラマ画像（84ページ）再生時には、1枚目を撮影したときのヒストグラムが表示されます。
• フラッシュ撮影やマルチ測光方式による撮影など、撮影したときの状況によっては、実際に撮影したときの露出と異なる露出でヒストグラムが表示される場合があります。

■ヒストグラムとは

ヒストグラム（輝度成分分布表）とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムを見ると、補正するために充分な画像のディテールが画像のシャドウ（左側）、中間調（中央部分）、ハイライト（右側）に含まれているかどうかを確認することができます。また、画像の色調範囲も簡単に識別できますので、色調補正を行うときの参考にもできます。

参考 • もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、露出値（EV値）を補正したり（58ページ）、絞り優先AEで絞り値を指定したり（68ページ）、マニュアル露出でシャッター速度、絞り値を設定してから（71ページ）、撮影し直すことをおすすめします。

画像を自動的にページめくりさせる（スライドショー）

撮影した内容を自動的に次々とページめくりさせる機能（スライドショー）です。ページめくりの間隔を設定することもできます。



1. **PLAYモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **"スライドショー"を選び【SET/DISP】を押します。**
- スライドショーが始まります。
- ここで【MENU】を押すと3〜30秒の範囲でページめくりの間隔を指定できます。

4. **【MENU】以外のボタンを押すとスライドショーが終了します。**

重要! • スライドショー中は、本機のオートパワーオフ機能（操作を行わないと自動的に電源が切れる機能）が働きません。このため電池で本機を使用しているときにスライドショーをしたまま放置してしまうと、確実に電池が消耗します。スライドショーを行った後は、必ずスライドショーを終了して電源を切るようにしてください。
• 画面の切り替り中はボタン操作が効かなくなります。画面が静止しているときにボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合はしばらくボタンを押し続けてください。
• パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、設定した間隔より長くなる場合があります。

画像サイズを変える（リサイズ）

撮影した画像のサイズを、640×480pixelsのVGAサイズに変えることができます。
• VGAサイズの画像は、メールに添付する画像やホームページに貼り付ける画像に最適です。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【▶】または【◀】でサイズを変えたい画像を表示させます。**

3. **【✿/∞/MF RESIZE】を押します。**

4. **"はい"を選びます。**
- リサイズを中止する場合は"いいえ"を選びます。

5. **【SET/DISP】を押します。**

重要! • リサイズした画像は最新ファイルとして保存されます。
• リサイズしても、リサイズする前の画像は残っています。
• 画像サイズが640×480pixels以下の画像はリサイズできません。
• ムービーモード、パノラマモードで撮影した画像、TIFF形式（非圧縮）で保存した画像サイズはリサイズできません。
• 操作中に"メモリーがいっぱいです　不要な画像を消去してください"というメッセージが表示された場合はリサイズできません。

画像の一部を切り抜く（トリミング）

拡大した画像から必要な箇所を切り抜いて、メールに添付する画像やホームページに貼り付ける画像などの構図を整えることができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【▶】または【◀】で切り抜きたい画像を表示させます。**

3. **【ズームレバー】をT(TELE)/🔍側にスライドして、画像を拡大します。**
- 【ズームレバー】をスライドすると、画面に枠が表示されます。枠が表示されない場合は、トリミングできません。

4. **【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分を枠で囲みます。**



5. **【 /∞/MF RESIZE】を押します。**

6. **“はい”を選びます。**
- トリミングを中止する場合は“いいえ”を選びます。

7. **【SET/DISP】を押します。**

重要!
- トリミングした画像は最新ファイルとして保存されます。
- トリミングしても、トリミングする前の画像は残っています。
- ムービーモード、パノラマモードで撮影した画像、TIFF形式（非圧縮）で保存した画像サイズはトリミングできません。
- 操作中に“メモリーがいっぱいです　不要な画像を消去してください”というメッセージが表示された場合はトリミングできません。

参考
- トリミングした画像のサイズは、下記のようになります。

トリミングする元の画素サイズ(pixels)	倍率2倍の画像からトリミングした場合(pixels)	倍率4倍の画像からトリミングした場合(pixels)
2048×1536	800×600	320×240
1024×768	320×240	トリミング不可
800×600	320×240	トリミング不可

消去する

画像を消去する方法には次の4つの方法があります。

表示画像　：表示されている画像を1画像ずつ消去する。
1画像単位：消したい画像を1画像ずつ選び、まとめて消去する。
フォルダ単位：フォルダごとに消去する。
全画像　：すべての画像を消去する。

重要!
- 一度消去してしまった撮影内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要な画面かどうかをよく確かめてから行ってください。特に、全画像消去の操作では、撮影したすべての内容を一度に消去してしまいますので、内容をよく確かめてから操作してください。
- すべての画像がメモリープロテクトされている状態では、実行できません。
- メモリープロテクトのかかった画像は消去できません。メモリープロテクトの解除（94ページ）を行ってから操作してください。

表示されている画像を消去する

表示されている画像を1画像ずつ消去することができます。

1. **PLAYモードにします。**

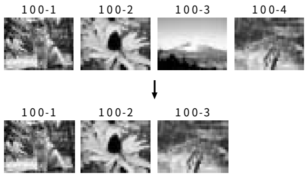
2. **【▶】または【◀】で消去したい画像を表示させます。**

3. **【 】を押します。**

4. **“はい”を選びます。**
- 消去を中止する場合は“いいえ”を選びます。

5. **【SET/DISP】を押します。**
- パノラマモードで撮影された画像は、グループ単位で消去されます。

参考
- 1画像ずつ削除を行うごとに、ページの空きができないように自動的にページ詰めが行われます。



1画像単位で消去する

消したい画像を1画像ずつ選び、まとめて消去することができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“消去”→“選択画像”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **【▶】または【◀】で消去したい画像を表示させます。**

5. **【▲】または【▼】で消したい画像に を表示させます。**



- 最初に表示される画像には初めから が表示されています。
- 複数枚まとめて消去する場合は手順4～5を繰り返します。

6. **【SET/DISP】を押します。**
- パノラマ撮影した画像は、グループ単位で消去されます。

7. **「表示されている画像を消去する」(90ページ)の手順4～5と同じ操作をして消去します。**

フォルダ単位で画像を消去する

フォルダ内の画像をまとめて消去することができます。

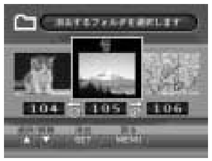
1. **PLAYモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“消去”→“フォルダ画像”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **【▶】または【◀】で消去したいフォルダを表示させます。**

5. **【▲】または【▼】で消したいフォルダに を表示させます。**



- 各フォルダ内の最初の画像が表示されます。
- 最初に表示されるフォルダには初めから が表示されています。
- 複数のフォルダをまとめて消去する場合は手順4～5を繰り返します。

6. **【SET/DISP】を押します。**

7. **「表示されている画像を消去する」(90ページ)の手順4～5と同じ操作をして消去します。**

全画像を消去する

すべての画像を消去することができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“消去”→“全画像”と選び【SET/DISP】を押します。**

4. **「表示されている画像を消去する」(90ページ)の手順4～5と同じ操作をして消去します。**

画像の管理について

本機では画像の撮影や再生の他、画像プリント時の枚数指定等や画像の消去防止の設定ができます。

フォルダの分類について

本機はメモリーカード内に、フォルダ（ディレクトリ）を自動的に作成します。

メモリーカード内のフォルダについて

撮影した画像は月日を名前としたフォルダの中に自動的に記録されます。フォルダは最大900作成されます。フォルダ名は次の通りです。

例：100（連番）、7月19日撮影

```
       月（2桁）
         日（2桁）
100_0719
    アンダーバー
連番（3桁）
```

各フォルダには最大250個の画像ファイルが登録でき、250枚以上撮影した場合は、次の連番のフォルダが自動的に作成されます。メモリーカードにはさまざまな制御用ファイルが記憶されていますが、画像ファイルは次の通りです。

例：11月7日の26番目に撮影した画像

```
月（2桁）
  日（2桁）
11070026.JPG
            拡張子(.JPG/.TIF/.AVI)
    連番（4桁）
```

- メモリーカード内に保存できるフォルダ数、ファイル数はメモリーカードの容量や画質によって異なります。
- パノラマファイルは通常の画像ファイル数枚を1グループとして保存されています。
- メモリーカード内の詳しいディレクトリ構造に関しては「メモリーカード内のディレクトリ構造」（10ページ）をご覧ください。
- 他のカメラで撮影したり、パソコンから画像をコピーして1フォルダ中に250枚以上画像ファイルが存在する場合は250枚目までしか再生されません。ただし、画像を消去した場合250枚目以降の画像が繰り上がって表示されます。

再生したいフォルダを選択する

1. PLAYモードにします。

2. 【⚡ 📁】を押します。

3. 再生したいフォルダを選び【SET/DISP】を押します。
- 選択したフォルダの最初の画像が表示されます。

撮影した画像の消去防止をする（メモリープロテクト）

大事な画像を誤って消去してしまうことを防止する機能（メモリープロテクト）がついています。メモリープロテクトされた画像は、消去の操作（90ページ）をしても消えることはありません。メモリープロテクトのかけかたには、1画像単位、フォルダ単位、全画像の3通りがあります。

1画像単位で消去防止する

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “プロテクト”→“選択画像”と選び【SET/DISP】を押します。

4. 【▶】または【◀】でメモリープロテクトしたい画像を表示させます。

5. 【▲】または【▼】で消去防止したい画像に“🔑”を表示させます。



- メモリープロテクトを解除する場合は🔑を消してください。
- 他の画像についても設定を行う場合は手順4〜5を繰り返してください。

6. 【SET/DISP】を押します。

フォルダ単位で消去防止する

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “プロテクト”→“フォルダ画像”と選び【SET/DISP】を押します。

4. 【▶】または【◀】でメモリープロテクトしたいフォルダを表示させます。

5. 【▲】または【▼】で消去防止したいフォルダに🔑を表示させます。



- メモリープロテクトを解除する場合は🔑を消してください。
- 他のフォルダについても設定を行う場合は手順4〜5を繰り返してください。

6. 【SET/DISP】を押して設定を終了します。

全画像を消去防止する

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

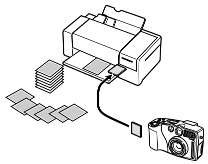
3. “プロテクト”→“全画像”と選び【SET/DISP】を押します。

4. メモリープロテクトの設定を選び【SET/DISP】を押します。
オン：すべての画像をメモリープロテクトします。
オフ：すべての画像のメモリープロテクトを解除します。

DPOF機能について

DPOF（Digital Printer Order Format）とはデジタルカメラで撮影した中からプリントしたい画像や枚数などの設定情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するためのフォーマットです。メモリーカードを通じてDPOF対応の家庭用プリンターやサービスラボでプリントすることができます。
本機では撮影された画像ファイル名などを意識することなく、【液晶モニター】で確認しながらプリントしたい画像の設定を行うことができます。

- 設定可能な内容
  画像／枚数／日付



1画像単位で印刷の設定をする

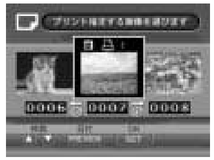
1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. “DPOF”→“選択画像”と選び【SET/DISP】を押します。

4. 【▶】または【◀】で印刷したい画像を表示させます。

5. 印刷の設定を行います。



【▲】／【▼】：
印刷する枚数が設定できます。🖨を表示させた画像が印刷されます。
- 印刷を解除する場合は【▼】を押して🖨を消してください。

【PREVIEW】：
日付の有無が設定できます。☑を表示させると日付入りで印刷されます。

- 他の画像についても設定を行う場合は手順4～5を繰り返してください。

6. 【SET/DISP】を押します。

フォルダ単位で印刷の設定をする

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "DPOF"→"フォルダ画像"と選び【SET/DISP】を押します。

4. 【▶】または【◀】で印刷したいフォルダを表示させます。

5. 印刷の設定を行います。

- 「1画像単位で印刷の設定をする」(96ページ)の手順5と同じ操作をします。

6. 【SET/DISP】を押します。

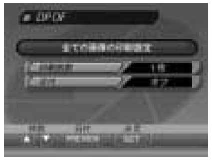
全画像に印刷の設定をする

1. PLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "DPOF"→"全画像"と選び【SET/DISP】を押します。

4. 印刷の設定を行います。



【▲】／【▼】：
印刷する枚数が設定できます。

- 印刷を解除する場合は【▼】を押して枚数を"0枚"にしてください。

【PREVIEW】：
日付の有無が設定できます。"オン"を表示させると日付入りで印刷されます。

5. 【SET/DISP】を押します。

その他の設定について

表示言語を切り替える

画面のメッセージを日本語と英語表示の2つから選ぶことができます。

1. RECモードまたはPLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "Language/言語"を選び【SET/DISP】を押します。

メニューのたどりかた：
RECモード時："機能"→"設定"→"Language/言語"
PLAYモード時："設定"→"Language/言語"

4. 設定内容を選び【SET/DISP】を押します。
English：画面のメッセージが英語で表示されます。
日本語：画面のメッセージが日本語で表示されます。

操作音のオンオフ

操作音のオンオフを切り替えることができます。

1. RECモードまたはPLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

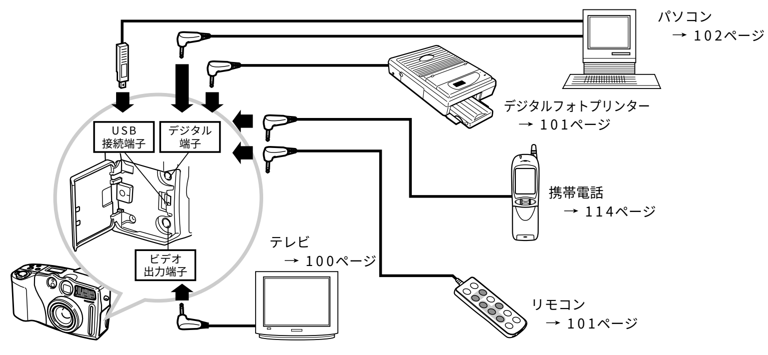
3. "操作音"を選び【SET/DISP】を押します。

メニューのたどりかた：
RECモード時："機能"→"設定"→"操作音"
PLAYモード時："設定"→"操作音"

4. 設定内容を選び【SET/DISP】を押します。
入：操作音がでます。
切：操作音がでません。

他の機器との接続

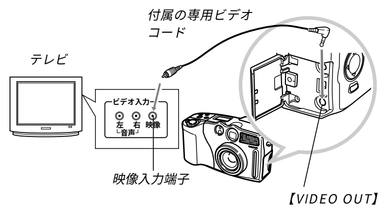
本機は、接続用の端子として【VIDEO OUT】(ビデオ出力端子)、【DIGITAL】(デジタル端子)、【USB】(USB接続端子)の3つを備えています。テレビやビデオ、パソコンなどさまざまな機器と接続して使用することができます。



重要!
- 接続は必ず本機と外部機器の電源を切った状態で行ってください。
- 接続する際は接続する外部機器の取扱説明書もあわせてお読みください。
- テレビやパソコンのCRTに同一の画像を表示して放置しておくことはおやめください。残像現象(画面焼け)をおこす場合があります。
- 本機ではケーブルを通じて他のカシオデジタルカメラへ画像を送ることはできません。

テレビに画像を映し出す

本機で撮影した内容や撮影中の表示をテレビの画面に映すことができます。テレビの画面に映すには、本機と映像入力端子を備えたテレビを付属の専用ビデオコードで接続します。



1. 付属の専用ビデオコードで本機とテレビを接続します。

2. テレビの映像入力を「ビデオ入力」に切り替えます。

3. 以降、本機で再生や撮影の操作を行ってください。

重要!
- 【液晶モニター】に表示されるアイコンなどはそのままテレビ画面に表示されます。

ビデオ出力の方式を変更する場合

本機はビデオ出力の方式に合わせて、設定を変更することができます。ビデオ出力の方式は次の2種類です。

NTSC：日本やアメリカなどで使用している方式です。
PAL：ヨーロッパなどで使用している方式です。

重要!
- PALを選んだときはビデオ出力時に本機の【液晶モニター】は消灯します。

1. RECモードまたはPLAYモードにします。

2. 【MENU】を押します。

3. "ビデオ出力"を選び【SET/DISP】を押します。

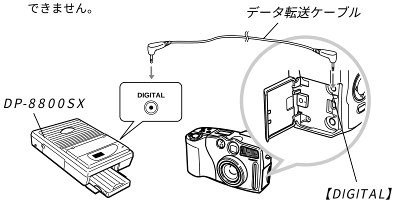
メニューのたどりかた：
RECモード時："機能"→"設定"→"ビデオ出力"
PLAYモード時："設定"→"ビデオ出力"

4. "NTSC"または"PAL"を選び【SET/DISP】で設定します。

デジタルフォトプリンターでプリントする

本機ではデジタルフォトプリンターと接続して撮影内容をプリントすることができます。

接続できる機種：DP-8800SX（別売品）
※ 他のデジタルフォトプリンター、およびQVカラープリンターは使用できません。



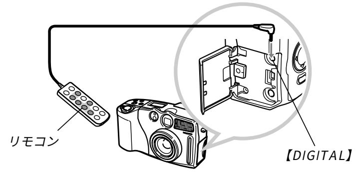
1. **デジタルフォトプリンターに付属の専用データ転送ケーブルで、本機とデジタルフォトプリンターを接続します。**
2. **接続後【電源／ファンクションスイッチ】を"PLAY"に合わせます。**
3. **以降、デジタルフォトプリンターの取扱説明書に従って操作してください。**

重要!
- デジタルフォトプリンターでの印刷ではパノラマモードで撮影した画像は1枚ずつの画像のまま印刷されます。パノラマ画像の状態での印刷はできません。
- ムービーモードで撮影された画像は印刷できません。

リモコンを接続する

リモコンを使用して、本機を操作することができます。シャッター速度が遅い場合や望遠での撮影で三脚と併用することで、手ブレを防ぐことができます。また、プレゼンテーションなどの操作にもご利用できます。詳しくはリモコンに付属の取扱説明書をご覧ください。

接続できるリモコン：WR-2C（別売品）



- リモコンで操作できるボタンは下記の通りです。
【シャッター】、【ズームレバー】、【MENU】、【✿/∞/MF】、【+】【−】、【SET/DISP】、【SHIFT】、【⚡】、【⏲】

パソコンで画像を活用する

本機は付属のCD-ROMに収録の専用ソフト（Photo Loader）を使用して本機の撮影内容をデジタルデータの状態でパソコンに転送することができます。次の端子を備えたパソコンに接続することができます。

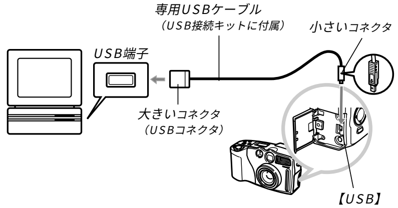
- Windowsの場合
  USB端子での接続
  RS-232C端子での接続
- Macintoshの場合
  USB端子での接続
  モデムポートまたはプリンタポート（RS-422端子）での接続

USB端子での接続（Windows／Macintosh）

USB端子を備えたパソコンと本機の【USB】（USB接続端子）を接続することで簡単にパソコンへのデータ転送ができます。接続には別売の専用USBケーブルが必要です。初めにUSBドライバをパソコンにインストールすれば、専用のUSBケーブルでパソコンと本機を接続するだけで、パソコン上の外部記憶装置として認識することができます。具体的な接続方法、USBドライバのインストール方法、動作環境については専用ソフト取扱説明書（インストール編）をお読みください。

別売品：専用USBケーブル　QC-1U
※ USB接続キットQC-1Uに付属のUSBケーブルもご使用できます。

■**接続のしかた**



- 専用USBケーブルをカメラに接続するときは、本機の【USB】（USB接続端子）の矢印とケーブルの矢印の向きを合わせるようにしてください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されていないと、正常に動作しません。
- USBケーブルからは本機に電源は供給されません。必ず別売の専用ACアダプターを使用してください。
- USBケーブルは本機専用品です。他の市販USBケーブルは使用できません。

- 通信中にケーブルを抜かないでください。データが破壊される恐れがあります。
- RECモード、PLAYモードのどちらでもUSBでの通信ができます。
- USBでの通信が終了したらUSBケーブルを抜いてください。
- USBで通信をしている状態では本機の電源は切れません。USBケーブルを抜いた後に本機の電源を切ってください。

その他の端子での接続

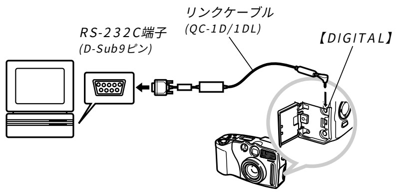
本機の【DIGITAL】（デジタル端子）を通して撮影内容をパソコンにデータ転送することができます。接続には別売のパソコンリンクケーブルと付属のCD-ROMに収録の専用ソフト（Photo Loader）が必要です。使用するパソコンリンクケーブルは接続するパソコンの端子の形状によって異なります。ここではパソコンリンクケーブルの接続方法を説明します。専用ソフトのインストール方法については別紙の「専用ソフト取扱説明書（インストール編）」をお読みください。

■**Windowsの場合**

RS-232C端子（D-Sub9ピン）を持ったパソコンの場合

IBM PC/AT互換機などの機種やNEC PC-9801/9821シリーズの一部の機種で、D-Sub9ピンのRS-232C端子を備えたパソコンとの接続はこの方法となります。下記のパソコンリンクケーブルでパソコンのD-Sub9ピンと【DIGITAL】(デジタル端子)を接続します。

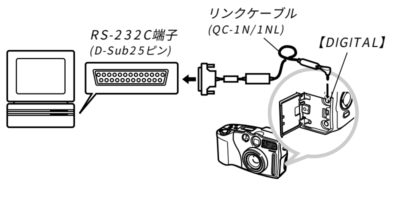
必要なパソコンリンクケーブル：QC-1D/1DL(別売品)



RS-232C端子（D-Sub25ピン）を持ったパソコンの場合

NEC PC-9801/9821シリーズなどの機種で、D-Sub25ピンのRS-232C端子を備えたパソコンとの接続はこの方法となります。下記のパソコンリンクケーブルでパソコンのD-Sub25ピンと【DIGITAL】(デジタル端子)を接続します。

必要なパソコンリンクケーブル：QC-1N/1NL(別売品)
※ PC98-NXシリーズにはIBM PC/AT互換機用のパソコンリンクケーブル（QC-1D/1DL）をご使用ください。



- パソコン側のRS-232C端子がハーフピッチ14ピン（ノートパソコンに多いタイプです）の場合は、市販のRS-232Cケーブル（ストレート結線タイプ・ハーフタイプ14ピンオス⇔D-Sub25ピンメス）が別途必要です。

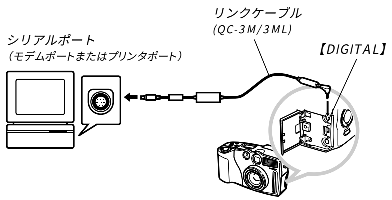
■**Macintoshの場合**

モデムポートまたはプリンタポート（RS-422端子）を備えたPower MacintoshまたはPower Book G3シリーズ、およびPower Book 2400／3400シリーズの場合

これらの機種は下記のパソコンリンクケーブルでパソコンのモデムポートまたはプリンタポートと【DIGITAL】(デジタル端子)を接続します。

- Power Book 2400/3400シリーズではQC-2Mは使用できません。必ずQC-3M/3MLを使用してください。
- iMacやiBookなどモデムポートまたはプリンタポート（RS-422端子）を備えていないMacintoshではパソコンリンクケーブルでの接続はできません。

必要なパソコンリンクケーブル：QC-3M/3ML(別売品)

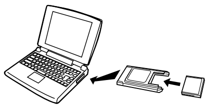


重要!
- 本機とパソコンの接続を行うときは必ず本機、接続するパソコン、およびパソコンにつながっているすべての周辺機器（モニターやハードディスクなど）の電源を切った状態で行ってください。
- 本機とパソコンを接続した後、本機の【電源／ファンクションスイッチ】を“PLAY”に合わせてください。“REC”ではパソコンと通信することはできません。
- 通信中にケーブルの抜き差しを行わないでください。ソフトが正常に動作しなくなるばかりでなく、データが破壊されたり、本機やパソコンの故障の原因となることがあります。
- パソコンとの通信を行う際、残り少ない電池で本機を使用しますと、画像データの通信中に電源が切れる可能性があります。パソコンとの通信には専用ACアダプター（別売品）をお使いください。
- 別売のパソコンリンクソフト（LK-1/LK-10NC/LK-10DV/LS-1W/LS-7W/LS-8W）では動作しません。
- 専用ソフト（Photo Loader）の動作環境についてはソフトの取扱説明書をご覧ください。

パソコンでメモリーカードを活用する

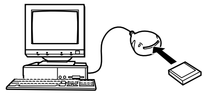
パソコンとの画像のやりとりをメモリーカードから直接行うことができます。また、付属のソフト（Photo Loader）を使用して、撮影内容をパソコンに自動的に保存することもできます。パソコンの機種によって接続方法が異なります。代表的な接続方法は次の通りです。

- コンパクトフラッシュカードスロットのある機種
  コンパクトフラッシュカードを直接差し込みます。
- PCカードスロットのある機種
  別売のPCカードアダプター＜CA-10＞を使用します。具体的な使用方法はPCカードアダプターとパソコンに付属の取扱説明書を参照ください。

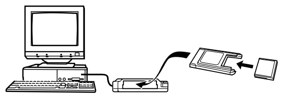


- 前記以外の機種

1） 市販のコンパクトフラッシュカード用リーダー／ライターを使用します。
具体的な使用方法はコンパクトフラッシュカード用リーダー／ライターに付属の取扱説明書を参照ください。



2） 市販のPCカード用リーダー／ライターと別売のPCカードアダプター＜CA-10＞を使用します。
具体的な使用方法はPCカード用リーダー／ライターとPCカードアダプターに付属の取扱説明書を参照ください。



メモリーカード内のデータについて

本機で撮影された画像やその他のデータは、DCF（Design rule for Camera File system）規格に準拠した方法でメモリーカードへ保存されます。DCF規格とは、画像ファイルと画像に関連するファイルをデジタルカメラと関連機器の間で簡単に交換することを目的とした規格です。

DCF規格について

DCF規格対応の機器（デジタルカメラやプリンターなど）の間で画像の互換性があります。画像ファイルのデータ形式やメモリーカード内のディレクトリ構造に規定がありますので、本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンターで印刷したりすることが可能です。逆にDCF規格対応の他社のデジタルカメラの画像も本機で見ることができます。本機では画像ファイルの管理に役立てるため、画像フォルダ名と画像ファイル名に日付を使用しています（93ページ）。

メモリーカード内のディレクトリ構造

■ディレクトリ構造

```
<\DCIM\>                          (親フォルダ)
  ├── INDEX.HTM                   (カードブラウザのメインファイル)
  ├── QVCAM.QVS                   (管理ファイル)
  │
  ├─□ HTML                        (カードブラウザ用フォルダ)
  │    INDEX2.HTM                 (カードブラウザ用ファイル：ここには
  │    MENU.HTM                    カードブラウザに必要なファイル、
  │      ：                        フォルダが含まれています)
  │
  ├─□ 100_MMDD                    (メイン画像フォルダ)
  │    100_MMDD.QVS               (管理ファイル(フォルダ内用))
  │    MMDD0001.JPG               (メイン画像ファイル)
  │    MMDD0002.JPG               (メイン画像ファイル)
  │    MMDD0003.AVI               (メインムービーファイル)
  │      ：
  │    └─□ PREVIEW                (プレビュー画像用フォルダ)
  │          DATA.HTM             (カードブラウザ用ファイル：ここには
  │          INDEX1.HTM            カードブラウザに必要なファイル、
  │                                フォルダが含まれています)
  │          MMDD0001.JPG         (プレビュー画像ファイル)
  │          MMDD0002.JPG         (プレビュー画像ファイル)
  │          MMDD0003.JPG         (プレビュー画像ファイル(ムービー用))
  │            ：
  ├─□ 101_MMDD                    (メイン画像フォルダ)
  ├─□ 102_MMDD                    (メイン画像フォルダ)
  │      ：

<\MISC\>                          (DPOFファイルを収めたフォルダ)
  ├── AUTPRINT.MRK                (DPOFファイル)

<\TIFF\>                          (TIFFデータ用親フォルダ)
  ├─□ 100_MMDD                    (TIFF画像用フォルダ)
  │      MMDD0001.TIF             (TIFF画像ファイル)
  │        ：
  ├─□ 101_MMDD                    (TIFF画像用フォルダ)
  ├─□ 102_MMDD                    (TIFF画像用フォルダ)
  │

<\SCENE\>                         (ベストショット用フォルダ)
  ├── S3500001.JPE                (サンプル画像ファイル)
  ├── S3500002.JPE                (サンプル画像ファイル)
  │     ：
  ├── U3500001.JPE                (サンプル画像ファイル)
  ├── U3500002.JPE                (サンプル画像ファイル)
  │     ：
  └── SCENE.QVS                   (ベストショット管理ファイル)
```


■フォルダ／ファイルの内容

- 親フォルダ
  デジタルカメラで扱うファイル全てを収めたフォルダです。
- カードブラウザメインファイル
  カードブラウザ機能で使用する表紙ファイルです。このファイルをWebブラウザソフトで開くと画像の一覧表が表示されます。
- 管理ファイル
  フォルダの管理や画像の順番などの情報が記載されているファイルです。
- カードブラウザ用フォルダ
  カードブラウザ機能で使用するファイルを収めたフォルダです。
- カードブラウザ用ファイル
  カードブラウザ機能で使用するファイルです。
- メイン画像フォルダ
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルを収めたフォルダです。
- メイン画像ファイル
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルです。
- メインムービーファイル
  デジタルカメラで撮影したムービーファイルです。
- プレビュー画像用フォルダ
  プレビュー画像を収めたフォルダです。属性は隠しファイルとなります。
- プレビュー画像ファイル
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルやムービーファイルと同時に記録されるサイズの小さな画像ファイルです。カメラ内での一時的な再生画面や、カードブラウザ機能の一覧表示に使用されます。
- DPOFファイルを収めたフォルダ
  DPOFファイルなどを収めたフォルダです。
- TIFFデータ用親フォルダ
  TIFFデータを収めた親フォルダです。
- TIFF画像用フォルダ
  TIFF形式で保存した画像を収めたフォルダです。
- TIFF画像ファイル
  TIFF形式で保存した画像ファイルです。
- ベストショット用フォルダ
  CD-ROMに記憶されているサンプル画像ファイルを収めたフォルダです。
- サンプル画像ファイル
  ベストショットモードで使用されるファイルです。

参考 • メモリーカード内のディレクトリ構造は「カードブラウザ（HTMLファイル）機能」（110ページ）によって多少異なります。

このデジタルカメラで扱える画像ファイル

- QV-3500EXで撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

※ただし、DCF規格の機能で使用できないものもあります。

パソコン上でメモリーカードを扱うときの注意点

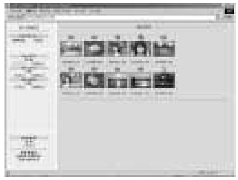
- 本機では管理ファイルにて画像ファイルなどの順番、属性を管理しています。したがって、パソコン上でメモリーカード内のファイルを更新したり削除すると、管理ファイルの内容と画像ファイルの順番、属性との整合性がなくなり、メモリーカードをデジタルカメラに戻したときに画像の順番が入れ替わったり、パノラマ画像のグループが解除されたり、ページの送り／戻しが遅くなったりすることがあります。
- メモリーカードの内容をパソコンのハードディスクやフロッピーディスク、MOディスクなどに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存し、その後パソコン上では管理ファイル（〜QV$）を更新したり削除しないでください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンのハードディスクなどに保存したファイルを再度メモリーカードに戻して本機で再生する場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻してからご使用ください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。元の名前に戻してから使用してください。
- 一度パソコンのハードディスクやフロッピーディスク、MOディスクなどにファイルを保存したあとのメモリーカードは、中のファイルをすべて削除するか、フォーマットしてからデジタルカメラでご使用になることをおすすめします。
- 本機で扱うメモリーカードは、ATAフォーマットで初期化されるため、Macintosh上ではメモリーカード内のすべてのファイルがテキストファイルとしてみなされます。Macintoshでファイルを開くためにPC Exchangeでメモリーカード内の画像ファイル（〜.JPG/.JPE/.TIF）をJPEG/TIFFファイルが開けるアプリケーションに関連づけてください。

カードブラウザ（HTMLファイル）機能

カードブラウザ機能とはブラウザソフトで本機で撮影した画像を一覧表示したり、撮影データを表示できる機能です。

- 本機で作成したカードブラウザは次のWebブラウザでご覧になれます。ただし、動画を再生する場合はQuickTimeが必要です。

Microsoft Internet Explorer Ver 4.01以上
Netscape Communicator Ver 4.5以上



カードブラウザの種類を選ぶ

1. RECモードまたはPLAYモードにします。

2.【MENU】を押します。

3.“カードブラウザ”を選び【SET/DISP】を押します。

メニューのたどりかた：
RECモード時：“機能”→“設定”→“カードブラウザ”
PLAYモード時：“設定”→“カードブラウザ”

4. カードブラウザのタイプを選びます。

切　：カードブラウザは作成されません。
タイプ1：撮影時の情報表示とスライドショー機能がついた高機能タイプ
- 高度なJava Scriptを使用しているので、Webブラウザのバージョンが限定されます。Microsoft Internet Explorer Ver4.01以上、Netscape Communicator Ver4.5以上で使用できます。

タイプ2：撮影時の情報表示と、軽快な画像確認が行えるタイプです。
- Webブラウザのバージョンに限定されません。

タイプ3：スライドショー機能がついたビューアーに徹したタイプ
- 高度なJava Scriptを使用しているので、Webブラウザのバージョンが限定されます。Microsoft Internet Explorer Ver4.01以上、Netscape Communicator Ver4.5以上で使用できます。

タイプ4：軽快に画像確認が行えるタイプ
- Webブラウザのバージョンに限定されません。

5.【SET/DISP】を押します。

- カードブラウザのタイプを選んだ場合、電源を切ったときに自動的にメモリーカード内の“DCIM”フォルダに“INDEX.HTM”ファイル、その他カードブラウザ用のファイルが作成されるようになります。
- 手順5操作で【SET/DISP】のかわりに【 】を押すと、すぐにカードブラウザ用のファイルが作成されます。この時点で「しばらくお待ちください」と表示されますので、この表示が消えるまで電源を切らないでください。

参考
- 本機は電源を切るときにカードブラウザ用のファイルを作成しているためメモリーカード内の画像枚数が多いと、電源が切れるまでの時間がかかることがあります。カードブラウザ機能を通常使用しない場合は、カードブラウザ機能の設定を“切”にすることをおすすめします。“切”にすると電源が切れるまでの時間が速くなります。

重要!
- 本機ではカードブラウザ機能を設定している場合、電源を切ると【液晶モニター】は消灯しますが、【動作確認用ランプ】は数秒間点滅しています。この間は自動的にカードブラウザ用のファイルを作成しています。【動作確認用ランプ】が点滅中に次の操作を行うと、カードブラウザ用のファイルが作成されないばかりでなく、画像データ等のメモリーカード内のデータが破壊される恐れがあります。下記の操作は絶対に【動作確認用ランプ】点滅中に行わないでください。
  1）メモリーカードカバーを開ける
  2）ACアダプターを抜く
  3）電池をはずす
  4）その他異常操作
- 電池寿命末期やメモリーカードの容量が少ないときはカードブラウザ用のファイルが正常に作成されない場合があります。
- カードブラウザに表示される言語は表示言語の切り替え（98ページ）で設定された言語になります。

カードブラウザファイルを見るには

カードブラウザファイルはパソコンで使用しているWebブラウザで見ることができます。

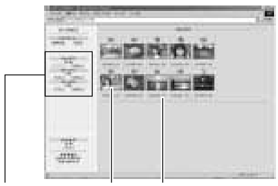
1. パソコンにメモリーカード内のデータを読み込む、またはメモリーカードをパソコンに接続します。

- メモリーカード内のデータの読み込みかた、メモリーカードの接続のしかたは「パソコンで画像を活用する」（102ページ）、「パソコンでメモリーカードを活用する」（105ページ）、をご覧ください。

2. メモリーカード内の“DCIM”フォルダを開きます。

3.“INDEX.HTM”ファイルをWebブラウザで開きます。

- メモリーカード内の最初のフォルダーの画像が一覧表示されます。

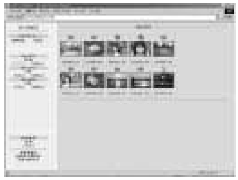


4. インターネットのホームページを見る要領で下記の部分をクリックして操作します。

一覧表示：各フォルダ内の画像の一覧が表示されます。
情報表示：各画像の画像情報が表示されます。
AUTO（スライドショー）
：ディスプレイのサイズいっぱいに画像が表示されます。約5秒間隔で次の画像を表示します。
MANUAL（スライドショー）
：ディスプレイのサイズいっぱいに画像が表示されます。画像をクリックするごとに次の画像が表示されます。

- 一覧表示／情報表示に表示されている画像をクリックすると、640×480 pixelsの画像が表示されます。さらにその画面をクリックすると撮影したサイズそのままの大きさの画像が表示されます。

重要!
- スライドショーで開いた画像は元のサイズにかかわらず画面いっぱいに表示されます。
- “一覧表示”ではプレビュー画像ファイル（108ページ）を使用しています。他のカメラで撮影した画像やパソコンからコピーした画像については、プレビュー画像がないために表示されないことがあります。この場合には、その画像をカメラ内でページ送りをして一度カメラの【液晶モニター】に表示させると、自動的にプレビュー画像が作成されます。その後、カードブラウザを表示させると、一覧表示の画像が表示されるようになります。



一覧表示



情報表示

- 表示される画像情報の内容

ファイルサイズ	：	File Size
画像サイズ	：	Resolution
撮影画質	：	Quality
撮影モード	：	Recording mode
露出モード	：	AE
測光方式	：	Light metering
シャッタースピード	：	Shutter speed
絞り	：	Aperture stop
露出補正	：	Exposure comp
測距方式	：	Focusing mode
フラッシュモード	：	Flash mode
シャープネス	：	Sharpness
彩度	：	Saturation
コントラスト	：	Contrast
ホワイトバランス	：	White balance
感度	：	Sensitivity
フィルター	：	Filter
色強調	：	Enhancement
フラッシュ光量	：	Flash Intensity
デジタルズーム	：	Digital zoom
撮影日時	：	Date
モデル名	：	Model

5. **カードブラウザを終了するには、Webブラウザを終了してください。**

カードブラウザを保存するには

- 【USB】（USB接続端子）での接続やメモリーカードを直接読み込んだ場合は、メモリーカード内の“DCIM”フォルダごとパソコンのハードディスクや、フロッピーディスク、MOディスクなどに保存してください。その後は“DCIM”内のファイルを更新したり消去しないでください。新たに画像を加えたり、消去したりすると、カードブラウザが正常に表示されなくなることがあります。
- 専用ソフト（Photo Loader）を使用してもカードブラウザを保存することができます。詳しくはPhoto Loaderの取扱説明書をご覧ください。
- メモリーカードを再びデジタルカメラで使用するときは、以前のファイルをすべて消去するか、フォーマットしてから使うことをおすすめします。

携帯電話に画像を送る

本機と携帯電話を接続して、本機で撮影した画像を簡単に携帯電話へ送り、待受画面などに利用したり、携帯電話の種類によってはメールに画像を添付して送ることができます。操作の方法や転送後の画像の利用方法等については、別売品の接続ケーブルに付属の取扱説明書や、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

使用できる携帯電話

使用可能な携帯電話は次の通りです。専用の携帯電話接続ケーブル（別売）で本機と携帯電話を接続します。

■使用可能な携帯電話

NTT DoCoMo：デジタル・ムーバ D502i HYPER、D209i HYPER

cdmaOne：C309H、C310T、C401SA、C402DE、C403ST、C404S、C405SA、C406S、C409CA

（2001年3月現在）

- ezweb@mail対応機種では、転送した画像をメールの添付ファイルで送ることができます。

■必要な別売品

携帯電話接続ケーブル（別売）：QM-2D（NTT DoCoMo用）
QM-1C（cdmaOne用）

重要!
- 携帯電話に転送した後の画像の利用方法は、接続した携帯電話により異なります。
- 使用できる携帯電話につきましてはカシオホームページ（http://www.casio.co.jp/）をご覧ください。

付録

メニュー一覧表

RECモード、PLAYモードのメニューに表示される項目の一覧表です。
- 下線の引いてある項目は工場出荷時に選択されている項目です。
- ショートカットの登録（80ページ）が可能な画面は○が印してあります。

RECモード

通常			
ポートレート			
風景			
夜景			
ベストショット			
ムービー			
ムービー（過去）			
パノラマ			
機能	連続撮影	切／入	○
機能	サイズ／画像	2048×1536：高精細 2048×1536：標準 2048×1536：エコノミー 1024×768：高精細 1024×768：標準 1024×768：エコノミー	○
機能	TIFFモード	切／入	○
機能	感度	ISO 100／ISO 180／ISO 300／ISO 500	○

機能	フィルター		切／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ピンク／紫	○
機能	露出モード		P／A／S／M	○
機能	測光方式		マルチ／中央重点／スポット	○
機能	ホワイトバランス		オート／太陽光／日陰／電球／蛍光灯／マニュアル	○
機能	色協調		切／赤強調／緑強調／青強調／肌色強調	○
機能	グリッド表示		切／入	○
機能	フラッシュ光量		強／標準／弱	○
機能	シャープネス		ハード／標準／ソフト	○
機能	彩度		高／標準／低	○
機能	コントラスト		高／標準／低	○
機能	タイムスタンプ		切／年月日／日時分／年月日時分	○
機能	デジタルズーム		切／オート／2倍／4倍	○
機能	スリープ		切／30秒／1分／2分	○
機能	オートパワーオフ		2分／5分	○
機能	ベストショット設定		内蔵＋CF／内蔵／CF	○
機能	モードメモリ	撮影モード	切／入	○
機能	モードメモリ	連続撮影	切／入	○
機能	モードメモリ	TIFFモード	切／入	○
機能	モードメモリ	感度	切／入	○
機能	モードメモリ	露出モード	切／入	○
機能	モードメモリ	測光方式	切／入	○
機能	モードメモリ	ホワイトバランス	切／入	○
機能	モードメモリ	フラッシュ	切／入	○
機能	モードメモリ	フォーカス方式	切／入	○

機能	モードメモリ	デジタルズーム	切／入	○
機能	モードメモリ	フラッシュ光量	切／入	○
機能	設定	カードブラウザ	切／タイプ1／タイプ2／タイプ3／タイプ4	○
機能	設定	操作音	切／入	○
機能	設定	日付表示スタイル	年月日／日月年／月日年	○
機能	設定	日時設定	日時の設定	○
機能	設定	Language／言語	日本語／English	○
機能	設定	フォーマット	いいえ／はい	○
機能	設定	ビデオ出力	NTSC／PAL	○
機能	設定	リンク	切／モード1／モード2／モード3	○
機能	設定	リセット	いいえ／はい	○

PLAYモード

設定	カードブラウザ	切／タイプ1／タイプ2／タイプ3／タイプ4
設定	操作音	切／入
設定	日付表示スタイル	年月日／日月年／月日年
設定	日時設定	日時の設定
設定	Language／言語	日本語／English
設定	フォーマット	いいえ／はい
設定	ビデオ出力	NTSC／PAL
設定	リンク	切／モード1／モード2／モード3
設定	リセット	いいえ／はい
消去	選択画像	ページ選択
消去	フォルダ画像	いいえ／はい
消去	全画像	いいえ／はい
DPOF	選択画像	画像、枚数、日付
DPOF	フォルダ画像	フォルダ、枚数、日付
DPOF	全画像	枚数、日付
プロテクト	選択画像	画像選択、オフ／オン
プロテクト	フォルダ画像	オフ／オン
プロテクト	全画像	オフ／オン
スライドショー		

各モードの設定内容

各撮影モードで設定可能な機能

各撮影モードでの設定項目に関する一覧表です。

○：設定可　△：一部設定可　×：設定不可

		シャッター半押し		フラッシュモード	セルフタイマー	オートフォーカスフレーム表示
		フォーカスロック	露出ロック			
撮影モード	通常	○	○	○	○	○
	ポートレート	○	○	○	○	○
	風景	○	○	○	○	○
	夜景	○	○	○	○	○
	ベストショット	○	○	○	○	○
	ムービー（通常）	×（追従）	×（追従）	×（発光禁止）	○	×
	ムービー（過去）	×（追従）	×（追従）	×（発光禁止）	×	×
	パノラマ	○	○	○	○	○
露出モード	Pモード	○	○	○	○	○
	Aモード	○	○	○	○	○
	Sモード	○	○	○	△	○
	Mモード	○	○	○	△	○

△：　セルフタイマー使用時はシャッター速度を“ BULB ”に設定できません。あらかじめ“ BULB ”に設定していた場合は、セルフタイマーが使用できません。

撮影モードと露出モードの併用

各撮影モードと露出モードの併用に関しての一覧表です。

○：併用可　×：併用不可

		露出モード			
		Pモード	Aモード	Sモード	Mモード
撮影モード	通常	○	○	○	○
	ポートレート	○	○	○	○
	風景	○	○	○	○
	夜景	○	○	○	○
	ベストショット	○	○	○	○
	ムービー（通常）	○	○	×	×
	ムービー（過去）	○	○	×	×
	パノラマ	○	○	○	○

故障とお思いになる前に

現象と対処方法

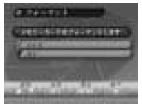
	現　象	考えられる原因	対　処
電源について	電源が入らない。	1）電池が正しい向きに入っていない。 2）電池が消耗している。 3）本機専用以外のACアダプターを使用している。	1）電池を正しい向きに入れる（→30ページ）。 2）新しい電池と交換する（→30ページ）。 3）本機専用のACアダプター（AD-C620J）を使用する。
	電源が勝手に切れた。	1）オートパワーオフが働いた（→35ページ）。 2）電池が消耗している。 3）レンズキャップをレンズに取り付けたまま、RECモードで電源を入れた。	1）再度電源を入れ直す。 2）新しい電池と交換する（→30ページ）。 3）レンズキャップをはずしてから再度電源を入れ直す。
	【液晶モニター】および【コントロールパネル】に“電池消耗マーク”が表示された。	電池が切れる寸前である。	新しい電池と交換する（→30ページ）。
撮影について	【シャッター】を押しても撮影できない。	1）【電源／ファンクションスイッチ】がPLAYモードになっている。 2）【フラッシュ】充電中である。 3）“ メモリーがいっぱいです ”と表示されている。 4）メモリーカードが入っていない。	1）RECモードに合わせる。 2）【フラッシュ】の充電が終わるのを待つ。 3）いらない画像を消去する。または、別のメモリーカードをセットする。 4）メモリーカードをセットする。
	オートフォーカスなのにピントが合わない。	1）【レンズ】が汚れている。 2）被写体が【オートフォーカスフレーム】の中央にない。 3）ピントの合いにくい被写体である。 4）手ぶれをしている。	1）【レンズ】をきれいにする。 2）被写体を【オートフォーカスフレーム】の中央に合わせる。 3）マニュアルフォーカスモードに切り替えて手動でピントを合わせる（→53ページ）。 4）三脚を使用してください。

	現　象	考えられる原因	対　処
撮影について	撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない。	ピントを合わせたい被写体に【オートフォーカスフレーム】を合わせて撮影してください。
	セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している。	新しい電池交換する（→30ページ）。
	【液晶モニター】に表示される画像のピントがあまい。	1）マニュアルフォーカスモードでピント合わせがずれている。 2）被写体が風景や人物なのに、マクロモードになっている。 3）接写をしているのに、オートフォーカスモードになっている。	1）ピントを合わせる（→53ページ）。 2）風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスモードにする。 3）接写撮影をする場合はマクロモードにする。
	撮影したのに保存されていない。	1）記録が終了する前に電池切れになった。 2）記録が終了する前に【メモリーカードカバー】を開けた。	1）バッテリー残量表示になったらすみやかに新しい電池と交換する。 2）記録が終了する前に【メモリーカードカバー】を開けないでください。
再生について	再生した画像の色が撮影時に【液晶モニター】で見た色と違う。	1）太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている。 2）撮影時に画質設定を変えて撮影している。	1）直接光がレンズに当たらないようにしてください。 2）同じ画質設定で撮影してください。
	9画面表示で【▶】【◀】が働かない。	画面が停止した状態でないと【▶】【◀】は働きません。	画面の停止中に【▶】【◀】を押してください。

	現　象	考えられる原因	対　処
再生について	画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用している。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードは、ファイル管理形式が異なるため再生できません。
	テレビにつないでもテレビに本機の【液晶モニター】の表示内容が映らない。	1）本機とテレビを正しく接続していない。 2）テレビ側の設定が合っていない。 3）ビデオ出力の方式が違う。	1）専用ビデオコードを使って正しく接続する（→100ページ）。 2）テレビの取扱説明書をお読みになり、テレビの設定をビデオ入力に切り替えてください。 3）ビデオ出力の方式を変更する（→100ページ）。
消去について	“ 消去 ”を指定しても消去指定画面に移動できない。	記録されているすべての画像にメモリープロテクトがかかっている。	消去したい画像のメモリープロテクトを解除する（→94ページ）。
その他	PLAYモードでメニュー内で選択できない機能がある。	1）再生している画像に対して機能しないものは選択できません。 2）画像が1枚も入っていない。	1）表示している画像ではその機能を使うことはできません。 2）撮影してからお使いください。
	すべてのボタンやスイッチが働かない。	他の周辺機器との接続中に静電気や衝撃等により、回路内部に障害が発生した。	電池を取り出し、ACアダプターのプラグを本機から抜き、入れ直してから再度操作してみてください。
	【液晶モニター】がつかない。	1）スリープ機能が働いている。 2）USB通信中である。	1）スリープ機能を解除してください（→35ページ）。 2）メモリーカードにパソコンからのアクセスがないことを確認してUSBケーブルを抜いてください。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可状態とき表示されます。撮影し直してください。
画像がありません	まだ何も撮影しいない状態、あるいは撮影内容をすべて消去して本機に一枚もない状態です。
このカメラでは表示できません **ファイル形式が異なるかファイルが壊れています**	画像ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
電池が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
フォーマットされていません **このカメラで使用するにはフォーマットする必要があります**	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードのフォーマットを行ってください（38ページ）。

フォーマット → MENU **メモリーカードが異常です** **このカメラで使用するには電源を立ち上げ直して下さい** **それでもこの表示が出るときはフォーマットして下さい** **フォーマット** → MENU	メモリーカードに異常が発生した場合に表示されます。下記の操作で解除が可能です。 **重要!** • 下記の操作を行うとメモリーカード内のすべての内容（ファイル）が消えてしまいます。下記の操作を行う前に、パソコン等を利用してメモリーカード内の正常なファイルを保存してください。 1. **【MENU】を押します。**  2. **【▲】または【▼】で“はい”を選び【SET/DISP】を押します。** • 操作を中止したい場合は【MENU】を押します。 • フォーマットの操作を行うときは、ACアダプターを使用するか、新品のアルカリ電池またはリチウム電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると正しくフォーマットが行われず、メモリーカードが正常に使用できない場合があります。 • フォーマットを終了すると“画像がありません”と表示されます。これは、フォーマットが正しく行われたことを示します。

“メモリカードが入っていません”	本機にメモリーカードが入っていない場合に表示されます。メモリーカードを入れてください（36ページ）。
メモリがいっぱいです **画質／サイズを切り換えるか不要な画像を消去して下さい**	現在の画質／サイズでは撮影できなくなり、他の画質／サイズに切り替えるとまだ撮影できることを示しています。画質／サイズを切り替えるか、不要な画像を消去する操作を行う必要があります（56、90ページ）。
メモリがいっぱいです **不要な画像を消去して下さい**	• 撮影可能枚数を使い切りました。撮影を行いたい場合は、不要な画像を消去する操作を行う必要があります（90ページ）。 • メモリーカードにパソコンからデータを転送したときに、メモリーカード内の空き容量が少ないために“DCIM”フォルダやその他のファイル（107ページ）が作成できない場合表示されます。パソコン上でメモリーカード内の不要なファイルを削除して、空き容量を増やしてください。【MENU】を押してフォーマットすることもできますが、メモリーカード内のデータがすべて消えてしまいます。
LENS CAP!	レンズキャップをレンズに取り付けたままRECモードで電源を入れるとメッセージが表示されて自動的に電源が切れます。レンズキャップをはずしてから再度電源を入れ直してください。

主な仕様／別売品

主な仕様

品名	デジタルカメラ
機種名	QV-3500EX
記録画像ファイルフォーマット	静止画（パノラマ画像含む）：JPEG（Exif Ver.2.1）/TIFF、DCF*準拠、DPOF対応 動画：AVI (Motion JPEG) *Design rule for Camera File systemの略です。
記録媒体	コンパクトフラッシュカード（TypeⅠ/Ⅱ対応） IBMマイクロドライブ対応
記録画素数	2048×1536 pixels 1024×768 pixels
記録枚数／画像ファイルサイズ（可変長）	静止画（JPEG形式のみ）（下表） ムービー（320×240pixels）（下表）

静止画（JPEG形式のみ）

出力画素数(pixels)	撮影画質	ファイルサイズ	コンパクトフラッシュカード8MB	マイクロドライブ340MB
2048×1536	FINE	約1.4MB	約5枚	約245枚
	NORMAL	約1MB	約6枚	約342枚
	ECONOMY	約600KB	約11枚	約562枚
1024×768	FINE	約350KB	約19枚	約943枚
	NORMAL	約250KB	約27枚	約1292枚
	ECONOMY	約150KB	約43枚	約2054枚

ムービー（320×240pixels）

記録容量	約300KB／秒
撮影時間	一度に撮影可能なムービーの最長時間は通常30秒／過去撮り30秒

消去	表示されている画像、1画像単位、フォルダ単位、全画像一括消去可能 （メモリープロテクト機能付き）
撮像素子	1/1.8インチ正方画素原色CCD （総画素数：334万画素、有効画素数：324万画素）
レンズ	F2.0－2.5　f=7－21mm （35mmフィルム換算　33～100mm相当）
ズーム	光学ズーム3倍／デジタルズーム12倍（光学ズーム併用時） ※ デジタルズーム4倍時、画像サイズは1024×768 pixelsになります。
焦点調節	コントラスト方式オートフォーカス マニュアルフォーカス可能、マクロモード、無限遠モード、フォーカスロック／フォーカスエリア指定付き
撮影可能距離（レンズ表面より）	標準：0.3m～∞ 接写：6～30cm（絞りF4以上でWIDE端に固定した場合） マニュアルフォーカスにより約6cm～∞
露出制御	測光方式：撮像素子によるマルチパターン測光／中央重点測光／スポット測光 制御方式：プログラムAE、絞り優先AE、シャッター速度優先AE、マニュアル露出 露出補正：－2EV～＋2EV（1/3EV単位）
シャッター	CCD電子シャッター／メカシャッター併用 BULB、60～1/1000秒
絞り	F2.0～F8　自動切替式、マニュアル切替可能
ホワイトバランス	自動／固定（4モード）、マニュアル切替可能
セルフタイマー	作動時間10秒、2秒
内蔵フラッシュ	発光モード：自動発光、強制発光、発光禁止、赤目軽減機能切替可能 フラッシュ撮影範囲：約0.5～4m

撮影関連機能	一枚撮影、連続撮影、ムービー撮影、パノラマ撮影、風景撮影、夜景撮影、ポートレート撮影、セルフタイマー撮影、マクロ撮影、ベストショット撮影
モニター	1.8型TFT低反射カラー液晶（HAST） 122.100(555×220)画素
ファインダー	液晶モニター/光学式ズームファインダー
時計機能	クォーツデジタル時計内蔵日付・時刻：画像データと同時に記録 自動カレンダー：2049年まで
入出力端子	デジタル入出力端子、外部電源端子、USB接続端子（専用ミニ端子）、ビデオ出力端子（NTSC／PAL標準方式準拠）
電源	乾電池×4（単3形アルカリ電池およびリチウム電池） 充電池×4（単3形ニッケル水素蓄電池（NP-H3）） 3Vリチウム電池パック（CR-V3P）×2 ACアダプター（AD-C620J） ACアダプターチャージャー（BC-3HA）
電池寿命	以下の電池寿命は、標準温度（25℃）で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。（下表）

使用電池	連続再生時	連続撮影時
単3形アルカリ電池 LR6	約170分	約70分（約420枚）
単3形リチウム電池 FR6	約270分	約150分（約900枚）
リチウム電池パック CR-V3P	約350分	約225分（約1350枚）
ニッケル水素蓄電池 NP-H3	約170分	約110分（約660枚）

	アルカリ電池、リチウム電池パックは松下電池工業（株）製、リチウム電池は富士写真フィルム（株）製の場合の数値です。電池寿命はメーカーによって異なります。連続撮影枚数は、フラッシュを使用せずに撮影した場合の撮影可能枚数です。フラッシュの使用、電源のON/OFFなどの条件により数値は異なります。（詳細については39ページをご参照願います。）
消費電力	約6.6W
サイズ	幅134.5mm×高さ80.5mm×奥行き57.5mm
質量	約320g（電池、付属品除く）
付属品	ネックストラップ、レンズキャップ、キャップホルダー、ソフトケース、ビデオコード、CD-ROM、アルカリ電池（LR6×4本）、取扱説明書（保証書付き）、専用ソフト取扱説明書（インストール編）

電源について
- 充電式電池は、別売品のニッケル水素蓄電池(Ni-MH)NP-H3をご使用ください。他の充電式電池については動作保証いたしかねます。
- 本機には時計専用の電池は入っておりません。単3形電池やACアダプターで電源が供給されていないと、約24時間で日時がリセットされますので、その場合は再度設定をしてください。（41ページ）

液晶パネルについて
- 【液晶モニター】に使用されている液晶パネルは、非常に高精度な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

別売品

- コンバージョンレンズアダプター　LU-35A
  ※推奨のコンバージョンレンズ/クローズアップレンズや、市販のフィルター使用時にはコンバージョンレンズアダプターが必要です。
- ワイヤードリモコン　WR-2C
- コンパクトフラッシュカード　CF-8x　(8MB)
  CF-16x　(16MB)
- PCカードアダプター　CA-10
- ACアダプター　AD-C620J
- ACアダプターチャージャー　BC-3HA
- ニッケル水素蓄電池／急速充電器セット　BC-1HB4
- ニッケル水素蓄電池(4本セット)　NP-H3P4
- USBケーブル　QC-1U
- パソコンリンクケーブル
  NEC PC-9801/9821シリーズ用:　QC-1N/1NL
  IBM PC/AT互換機／PC98-NXシリーズ用:　QC-1D/1DL
  Macintosh用：　QC-3M/3ML
  ※必ず、103ページの「その他の端子での接続」をお読みください。
- 携帯電話接続ケーブル
  NTT DoCoMo用　QM-2D
  cdmaOne用　QM-1C
- デジタルフォトプリンター　DP-8800SX
  ※他のデジタルフォトプリンターおよび、QVカラープリンターは使用できません。

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオホームページでもご覧になることができます。

http://www.casio.co.jp/